地質学雑誌　第116巻　第7号（通巻1378号）付録　平成22年7月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.13 No.7 July 2010

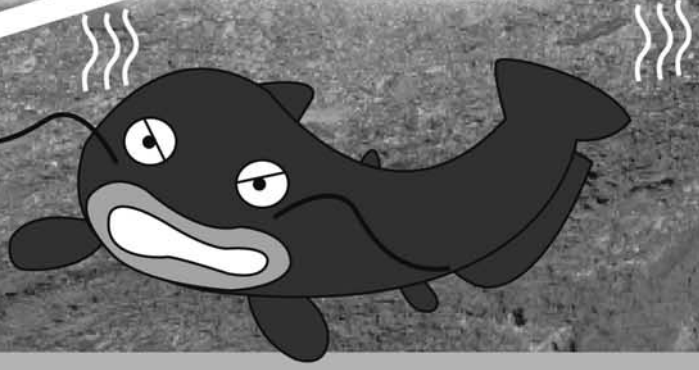
地質情報展2010とやま―海・山ありて富める大地―

市民講演会 北陸の大地をゆるがす 地震と恐竜

平成２２年９月18日（土）
14:00～15:40
会場：富山市民プラザ
４階アンサンブルホール
（富山市大手町６番14号）
入場無料・申込不要　定員３００名（先着順）

講演１
東　洋一（福井県立恐竜博物館特別館長）
「アジアの恐竜と日本の恐竜」

講演２
寒川　旭（独立行政法人産業技術総合研究所
関西センター招聘研究員）
「大地に刻まれた地震痕跡」



日本地質学会 第１１７年学術大会 富山大会

主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
後援：富山県教育委員会・富山市教育委員会・ＮＨＫ富山放送局・北日本新聞社

「地質情報展2010とやま―海・山ありて富める大地―」は、平成22年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

日本地質学会*News*

Vol.13 No.7 July 2010

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会第117年総会記事 ……2
議事録/2009年度事業経過報告/決算書類/移譲契約書

一般社団法人日本地質学会2010年度総会記事 ……10
議事録/2009年度事業経過報告/決算書類/予算書類/2010年度事業計画骨子
2010年度名誉会員推薦理由/2010年度50年会員顕彰者/2010年度各賞受賞理由

会員特別割引販売のお知らせ：日本地方地質誌　8．九州・沖縄地方 ……20

ご案内 ……21
第19回日本水環境学会市民セミナー/地球システム・地球進化　秋の学校 in 関西

公募 ……21
東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）教員公募/神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教員公募/東邦大学理学部化学科教員公募/東北大学大学院理学研究科地学専攻教員公募

各賞・研究助成 ……22
2010年度「朝日賞」/第14回尾瀬賞募集/第32回（平成22年）沖縄研究奨励賞推薦応募/平成22年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

CALENDAR ……24

科学研究費補助金
「系・分野・分化・細目表」に関する意見募集 ……24

地質の日行事報告 ……25
本部：写真家白尾元理講演会「地球史46億年を撮る」/北海道支部：「地質の日」・「国際博物館の日」記念企画展示　わが街の文化遺産―札幌軟石　歩いた！ 探した！ 見つけた！/関東支部：地質技術伝承講習会/近畿支部：地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？－大阪平野の地下水を可視化する－」/西日本支部：「地質の日」企画：『身近に知る「くまもとの大地」』/中部支部：体験型イベント「サイエンスフェスティバル」

支部コーナー ……29
北海道支部：野外巡検　夕張市・白金川流域の地質―砂金・化石の産状と白亜紀海洋無酸素事変層準の観察―のご案内/関東支部：関東支部顕彰制度制定へ/関東支部：シンポジウム「関東盆地の地下地質構造と形成史」

ジオ・スクーリングネットに登録しよう！～富山大会でCPD単位が取得出来ます～/地質学会における技術者の継続教育単位の目安（表）……30

院生コーナー ……32
6 Weeks in Misasa：三朝国際インターンプログラム2009参加報告（竹原真美）

意見・提言 ……33
小惑星探査機「はやぶさ」の帰還に関して声明

表紙紹介 ……33
万丈窟（韓国，済州島）（白尾元理）

富山大会関連情報 ……33
見学旅行もまだまだ申込可能です/富山大会に関連したプレス発表を希望される方へ/“緊急展示”の申し込みについて

学会記事 ……34
（任）日本地質学会2009年度第11回理事会・（一社）日本地質学会2009年度第11回執行理事会議事録/（任）日本地質学会2009年度第12回理事会議事録/（任）日本地質学会2009年度第３回定例評議員会議事録

一般社団法人 ……38
（一社）日本地質学会2009年度第12回執行理事会議事録/（一社）日本地質学会2009年度第３回理事会議事録/（一社）日本地質学会2010年度第１回理事会議事録

事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

7月/July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月/August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2＊	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8/13-16：事務局夏期休業

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

日本地質学会第117年総会記事

議　事　録

以下のとおり，第117年総会を開催した．
日時　2010年５月23日（日）18：00－18：45
会場　幕張メッセ国際会議場　304会議室

総会開始にあたり，議長･副議長，書記として，本日出席代議員の中から以下の方々を選出した．
議長：Simon Wallis；副議長：中澤　努；書記：延原尊美・古川竜太

議長より，現時点での出席者数は，委任状（44名）・議決権行使書（22名，全議案承認）を含め137名で，定款所定の定足数（101名）をこえる出席者があるので成立している旨宣言し，議事に入った．

１号議案　2009年事業経過報告
渡部常務理事より事業経過報告がなされ，今年度の逝去会員15名（名誉会員５名，正会員10名）にたいし黙祷を捧げた．特に質問等はなく，本議案を賛成多数で承認した．

２号議案　2009年度決算報告と資産の処分
会計担当の向山理事から報告と説明があった．また，青野監事より，2009年度の会計については，預貯金の残高証明書等を確認するなどし，適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった．引当金取崩しについての質疑応答があったのち，本議案を賛成多数で承認した．（P.５－８参照）

３号議案に入る前に，出席者数の再確認がなされ，出席者数は委任状，議決権行使書を含め，144名であることが議長より報告された．

３号議案　任意団体の解散
渡部常務理事より，前期の総会での承認にしたがい，2009年度末にて任意団体の日本地質学会を解散すること，そのために，2010年４月１日をもって一般社団法人日本地質学会に，事業および財産のすべてを譲り渡すための「譲渡契約書」を，同法人と交わしたことが報告された．（P.９参照）
特に質問や意見等はなかったが，重要な議案であるので，採決カードにより決をとった結果，出席者全員の賛成を得て，任意団体の解散を承認した．

会長挨拶
宮下会長より，任意団体としての日本地質学会から一般社団法人日本地質学会への約１年半の移行期間を経て，第３号議案の議決をもって，任意団体としての日本地質学会は117年の長い歴史にピリオドをうち，ここに解散すること，そして今後は，一般社団法人日本地質学会がその事業・財産・任務を引き継ぎ，責任の主体となることが宣言された．

2010年5月23日

2009年度事業経過報告

１．報告事項
１）会員の動静
2010年４月末現在の会員は，賛助会員28社，名誉会員72名，正会員4025名（うち院生割引105名），準会員〔法人：正（学部割引）〕２名，会員総数4127名，2009年４月末と比べて139名の減少であり，その内訳は次のとおりである．

入会者　142（賛助０社，正会員128名〔うち院生割引97名〕，準会員14名）
退会者　141（賛助２社，正会員137名〔うち院生割引11名〕，準会員２名）
除籍者　125（正会員　125名）
逝去者　15（名誉会員５名，正会員10名）
名誉会員：加納　博（2009/6/6），松井　健（6/21），羽鳥謙三（9/2），市川浩一郎（11/25），古川和代（2010/3/4）
正会員：井田隆勝（2009/6/6），山嵜謙一（9/3），青木　清（8/30），飯島治男（10/12），堀越　叡（10/16），鈴木康司（11/8），植田和男（11/9），根本　守（12/2），本庄　充（1/4），坂　幸恭（3/31）

２）学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動
＜第116年総会＞
日時：2009年５月17日　17：45～18：54
会場：幕張メッセ　国際会議場302会議室
議決権総数　201，定足数　101
審議事項：１）2008年度事業経過報告，２）2008年度決算報告，３）2009年度事業計画案，４）2009年度予算案，５）名誉会員の推薦，６）任意団体日本地質学会の解散について
＜委員会等の開催＞
・理事会（12回）議事内容，報告等については，随時HP,ニュース誌に掲載
・定例評議員会（３回）議事内容，報告等については，随時HP,ニュース誌に掲載
・その他委員会：　総務委員会（会計委員会），広報委員会（インターネット委員会），行事委員会，地質学雑誌ならびにアイランドアーク編集委員会，地質基準委員会，男女共同参画委員会，法務委員会学会など，メールによる会議を含め，随時開催．
＊各賞選考委員会（選考検討委員会，アイランドアーク賞選考委員会を設置し，該当賞の選考を諮問），名誉会員推薦委員会，選挙管理委員会は一般社団法人の委員会として始動．

３）行事の開催
(1) 第116年年会
会　期：2009年９月４日～６日
会　場：岡山理科大学
参加者：858名（会員817名，非会員41名）
・一般発表：483件（申込み488件）：口頭286件（申込み288件），ポスター197件（申込み200件）
・シンポジウム：８件（73講演）
・優秀ポスター賞の授与：９件（ポスター発表のみ）
・見学旅行：実施10コース
・ランチョン：専門部会を中心に12件
・夜間小集会：11件
・就職支援プログラム：　2009年９月５日
　参加企業・団体：８社・１団体
＜日本地質学会各賞の授与式・記念式典＞
日時：９月４日（金），会場：岡山理科大学25号館8階ホール
・日本地質学会賞記念講演「レオロジーと岩石学，そして地球内部ダイナミックス」（鳥海光弘会員），「オフィオライトと東北アジアの地質学的研究」（石渡　明会員）
・日本地質学会国際賞受賞記念講演「私の

任意団体の解散について，出席者全員の賛同を得る（左）．挨拶をする宮下会長（右）．

北極・南極」（太田昌秀博士）
・日本地質学会小澤儀明賞受賞記念スピーチ「いろいろやってみる―地球生命環境史の総合解読―」（小宮 剛会員），「忘れられていた珪藻化石―キートケロス属休眠胞子化石―」（須藤 斎会員）
・日本地質学会柵山雅則賞受賞記念スピーチ「小さな石」（水上知行会員）

＜年会関連行事＞
・地質情報展2009おかやま－ワクワク発見瀬戸の大地－　2009年9月5日～6日
共催：林原自然科学博物館（岡山市デジタルミュージアム）　参加者：約2000名
・市民講演会「大地から考える地球環境―地質と生物・農業の深い関係―」2009年9月5日，参加者：約130名，講師：波田義夫，武田　弘
・ジオパークワークショップ「ジオパークによる地域活性化をめざして―地域と地質学者の連携のあり方をさぐる―」2009年9月5日，日本ジオパークネットワーク　共催，参加者：約80名
・地学教育委員会
小さなEarth Scientist のつどい～第7回小・中・高校生徒地学研究発表会：2009年9月6日，参加校13校，15件，うち4件に優秀賞を授与．
第8回理科教員対象見学旅行：2009年9月5日，「岡山県南部の花崗岩類（万成石）と文化地質学」

(2) 地質の日　本部イベント
・「特別講演会 火山はすごい！－日本列島の火山をさぐる」（講師：鎌田浩毅会員），5月10日，科学技術館

4）出版物の刊行

＜地質学雑誌＞
・115巻4号（2009年4月）～116巻3号（2010年3月）を刊行した．総ページ数は720ページ．
・地質学雑誌補遺：岡山大会見学旅行案内書　冊子版およびCD-ROM版

＜日本地質学会ニュース＞
・12巻4号（2009年4月）～13巻3号（2010年3月）を発行した．総ページ数は365ページ．

＜Island Arc＞
・Island Arc 編集委員会の編集により，Wiley-Blackwell社よりVol.18,Issue 2～Issue 4 Vol.19,Issue 1 を刊行した．総ページ数は638ページ．

＜その他＞
・日本地方地質誌6巻「中国地方」（朝倉書店）9月5日に刊行．
・フィールドジオロジー6巻「構造地質」（共立出版）12月23日に刊行．

5）関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて，これまでに引き続きそれぞれの活動，関連学会の発展と連携に協力した．

日本地球惑星科学連合：評議員（宮下純夫），連絡委員（久田健一郎），プログラム委員（七山太），キャリアパス支援小委員会委員（佐々木和彦），環境・災害対応委員会-災害の委員（横山俊治），環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井衛），学術出版委員会委員（井龍康文），教育問題検討委員会（矢島道子，芝川明義，中井睦美，渡邉正人），国際委員会（副委員長　公文富士夫），地質科学関連学協会連合（天野一男），自然史学会連合（斎木健一），地理関連学会連合（藤本光一郎），地質技術関連学協会継続教育協議会（CPD，公文富士夫），日本技術者教育認定機構（JABEE，天野一男），国際惑星地球年（IYPE）日本委員会（佃　栄吉），地質の日実行委員会（委員　藤林紀枝）原子力総合シンポジウム（運営委員，高橋正樹），アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員，小笠原正継），地質情報活用機構（GUPI）技術者の認定制度創設のための委員会委員（山本高司）　富士学会：富士山科学看板設置調整委員会（専門委員　高橋正樹），日本ジオパーク委員会（委員　高木秀雄），大学評価･学位授与機構の専門委員など．

6）その他報告事項（主なもの，そのほかはNews誌，HPに掲載の理事会議事録，評議員会議事録参照）

＜特に他学協会との共催・後援，協賛行事，開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの＞
・JAMSTEC主催の一般講演会（9/6 岡山）の共催．
・日本アイソトープ協会：第47回アイソトープ・放射線研究会（2010年7/7－9日）の共催．運営委員：小笠原正継．
・科学教育研究協議会，第57回全国研究大会（武庫川女子大学附属中学校・高等学校，2010年8/4－6）の後援．
・日本原子力学会，原子力総合シンポジウム2010（5月開催）の共催,運営委員：高橋正樹．

7）支部の活動

＜北海道支部＞
(1) 北海道支部総会（2009年5月30日）
・個人講演会（8件）
・日本地質学会長講演会 「オマーンから日高―マントルと海洋地殻を見る―」
日本地質学会長 宮下純夫
(2)「地質の日」記念展示（2009年4月28日～5月31日）
北海道大学総合博物館企画展示「支笏火山と私たちのくらし」．日本応用地質学会北海道支部・北海道大学総合博物館・北海道地質調査業協会・札幌建築鑑賞会・札幌軟石文化を語る会の共催
(3) 支笏洞爺国立公園60周年記念行事「支笏火山と市民のくらし」展（2009年6月2日～7月15日）
(4) 北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質　魅力発見！」（2009年10月17日）
(5) 北海道支部臨時総会（2010年3月20日）
・個人講演会（8件）
＊2010年度の支部体制　支部長：竹下 徹（北大），幹事（庶務）：高嶋礼詩（北大）

＜東北支部＞
＊2009年12月　宮城から福島に事務引き継ぎ．
＊2010年2月　2009－2010年度の運営体制と事業計画・予算案等について会員にメールで提案した．会員からの異論は無く次のとおり進めることとした．
(1) 運営体制
支部長：竹谷陽二郎（福島県立博物館）
幹事：（代表）長橋良隆，柴崎直明，難波謙二（以上，福島大学）
(2) 事業計画
2010年度中に支部例会および総会を開催する．また，地質学に関する普及活動を進めている地域への研究等の協力・支援，例えばジオパークに関する活動を行っている地域への学術的および人的支援などを行う．

＜関東支部＞
(1) 地質技術伝承講演会―技師長が語る地質工学余話シリーズ―の開催
第4回（4月11日）農業の有する多面的機能と地質技術者の役割（講師　山本昭夫（中央開発））
第5回（5月10日）海底探査（海底調査）の魅力・海洋地質学の基礎を学ぶ（講師　安間　恵（川崎地質））
会場：国立科学博物館日本館4階　参加者：各50名
第6回（6月6日）山岳トンネルの地下水問題にどう取り組んできたか（講師　大島洋志（国際航業））
会場：国立科学博物館新宿分館　参加者：120名
(2) ジオパークを目指して
・秩父地域の観察会と講演会（2月13日）参加者80名
ジオサイト観察会　長瀞の岩畳
ジオパーク講演会　久喜邦康 秩父市長挨拶
「日本地質学発祥の地」秩父とジオパーク　本間岳史（埼玉県立自然の博物館）
「秩父の地形・地質」を代表するジオサイト　小幡喜一（埼玉県立熊谷高校）
・秩父ジオサイトバスツアー（3月6日）参加者70名
浦山ダム～橋立鍾乳洞～前原の不整合～取方～ようばけ～ミューズパーク
案内者：本間岳史・楡井尊（埼玉県立自然の博物館），小幡喜一（埼玉県立熊谷高校）
主　催：秩父市・横瀬市・皆野町・長瀞町・小鹿野町，埼玉県立自然の博物館，日本地質学会関東支部
(3) 支部総会とシンポジウム（6月6日）

「関東地方の地質―研究の進展と今後の課題」
日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウム
関東支部総会：支部幹事改選，活動報告，会計報告，活動計画
(4) 2011年学術大会計画準備
8～9月　会場校候補に打診，9月　岡山大会運営視察，10月　立候補会場校を視察，茨城大学選定，11月　関東支部・茨城大学合同会議，12月　大会実行委員会を設立，1月　2011年水戸大会とすることに決定（2011年9月2日～4日）

＜中部支部＞
(1) 中部支部総会（6月13日，山梨大学）
(2) シンポジウム「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」（6月13日，山梨大学）
(3) 個人講演（口頭，ポスター）（6月13日，山梨大学）
(4) 地質見学会「八ヶ岳火山とその周辺の地質について」（6月14日，山梨大学）
(5) 普及行事「小・中学生のための地学野外観察会」（名古屋地学会共催）（11月21日）
(6) 第117年学術大会（富山）実行委員会，見学旅行準備委員会設立

＜近畿支部＞
(1) 共催事業
・地球科学講演会「ヒマラヤ山脈の誕生とモンスーン気候の始まり」
講演者：酒井治孝（京都大学大学院理学研究科）
主　催：地学団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館
実施日：2009年5月9日
会　場：大阪市立自然史博物館 講堂
参加者：190名以上
(2) 後援事業
・特別講演会「地盤工学と地質学の融合―関西国際空港の地盤を例として―」
主催　関西国際空港用地造成㈱
月日：2009年7月3日
会場：エル・おおさか（大阪府立労働センター）
講演：「関西国際空港地盤の解明に果たした地質学の役割」竹村　恵二（京都大学大学院理学研究科）はじめ講演4件

＜四国支部＞
・四国支部総会（2009年11月28日）高知大学共通教育棟
同講演会　口頭発表7件，ポスター発表9件
同巡検　仏像構造線（荒倉トンネル周辺）
担当者　橋本善孝・岡村眞

＜西日本支部＞
(1) 2008年度の支部体制・支部長：大木公彦，幹事：佐野弘好・宮本隆実・仲　谷英夫・松田博貴，
事務局：松田博貴，庶務：磯部博志，会計：小松俊文
(2) 行事報告
・第158回西日本支部例会・2009年度総会
日時：平成22年2月13日（土），場所：福岡大学
講演件数：口頭講演　26件，ポスター発表　17件
・後援行事等
『「地質の日」くまもと』企画，日時：平成21年5月10日(日)

2．理事会議決・承認事項および評議員会評議，承認事項

1）第四紀再定義の国内対応方針について，学術会議，産総研，第四紀学会，連合等との共同で，変更に関する背景や影響についての解説やシンポジウム，国内コンセンサス作りをすることとした．
2）国立国語研究所から，著作物の言語データベースKOTONOHAにサンプル文章として著作物（地質基準）の採録許諾について依頼があり承諾した．
3）地質の日の本部主催イベント：市民講演会「火山はすごい！―日本列島の火山をさぐる（講師：鎌田浩毅会員）」を5月10日に開催．
4）IYPE日本と共催の第1回惑星地球フォトコンテスト2009を実施．ポスターの作成・配布，新聞広告掲載（産経新聞：東海・北陸・九州版，8万部）
5）IARの著作権の管理方針，Copyright Transfer Agreement（CTA）の導入について，承認．
6）地球惑星科学連合及び学協会名で地方分権改革推進委員会第3次勧告，博物館法改正への意見表明をした．
7）行政刷新会議の事業仕分け（次世代スパコン，spring8，深海ドリリング，地球内部ダイナミクス）に対し，地球惑星科学連合及び学協会名で意見書を提出した．
8）地質学雑誌115巻9月号より新編集規則の適用を開始した．
9）年会の旅行及び参加登録について，学会独自のシステムを構築することとした．
10）ジオパーク支援委員会は，ジオパーク宣伝ポスターを作成し，関係機関へ配付した．
11）紹介派遣により1月～3月までの契約で事務局職員1名を雇用することとした．
12）富山大会の業務委託について，アカデミックブレインズに発注することとした．
13）モンゴル地質学会と学術交流協定を締結した．
14）地球惑星連合の定款変更に対し，同意書を提出した．
15）年会登録システム構築に際してのクレジット決済導入を検討し，代行会社へ委託することとした．
16）2011年年会開催地の決定：関東支部茨城地区，会場：茨城大学．会期：2011年9月2日～4日．委員長：天野一男，事務局長：岡田　誠．
17）IYPE日本委員会ファイナルイベント（2010年3月27―28日開催）へ特別協賛した（特別協賛金12万）．（会期：2010年3月27日：「早大高等学院の高校生，四川大地震記録映画製作者と一緒に語る『大地の変動』」，3月28日：フォトコンテスト表彰式（入賞14作品：会員2名，非会員12名）・27―28日写真展の開催）．
18）第四紀問題に関し，学術会議主催，第四紀および本学会との共催でシンポジウムを開催した．
19）第四紀・第三紀問題について，1月22日公表文書の内容を地質学会の指針とし，雑誌やHPなど学会の公式文書はそれに従うこととする．地層名委員会と理事会の連名で，指針と推奨する年代表をHPやNews誌などに速やかに掲載する．
20）富山大会の見学旅行案内書について，実行委員会から冊子作成の希望があり，検討の結果，冊子作成を承認した．
21）第四紀の下限および「第三紀」の用語不使用等に関しては，合意文書（1月22日，学術会議分科会および第四紀学会・地質学会）に基づく地質学会の方針にそって，116巻3号掲載論文より適用することとした．
22）2010年5月23日の総会で任意団体を解散し，任意団体の全財産および活動を法人に移譲することを承認した．【2号議案】
23）2009年度事業報告・決算案を承認した．【2号議案】
24）総会議案を承認した．

2009年度（平成21年度）会計収支計算書

（2009年4月1日～2010年3月31日）　（単位：円）

収入の部	09年予算	09年決算	差　異
1. 会費収入	**46,830,000**	**47,190,426**	**△ 360,426**
賛助会員	1,800,000	1,800,000	0
正会員	43,000,000	43,631,676	△ 631,676
院生割引正会員	1,900,000	1,613,250	286,750
準会員	130,000	145,500	△ 15,500
2. 事業収入	**15,200,000**	**17,569,542**	**△ 2,369,542**
論集収入	300,000	239,210	60,790
雑誌販売収入	3,000,000	3,868,735	△ 868,735
雑誌印刷負担金収入	1,300,000	1,782,600	△ 482,600
別刷収入	1,000,000	908,265	91,735
予稿集バックナンバー売上	0	137,500	△ 137,500
広告料収入	900,000	659,000	241,000
年会開催収入[1]	7,700,000	8,384,372	△ 684,372
参加登録料	5,500,000	5,614,160	△ 114,160
予稿集売上	1,400,000	901,600	498,400
展示収入	700,000	709,800	△ 9,800
補助金・寄付金[2]	0	1,020,000	△ 1,020,000
雑収入	100,000	138,812	△ 38,812
普及資料等販売収入[3]	1,000,000	1,589,860	△ 589,860
3. その他	**4,005,346**	**4,378,121**	**△ 372,775**
受取利息	40,000	52,767	△ 12,767
引当金受取利息	80,000	143,088	△ 63,088
基本財産受取利息	50,000	39,405	10,595
雑収入[4]	1,335,346	1,419,223	△ 83,877
アイランドアーク関連収入	2,500,000	2,294,531	205,469
寄付金	0	429,107	△ 429,107
4. 基本財産受け入れ収入	**0**	**0**	**0**
5. 特定引当預金取崩収入[5]	**17,300,000**	**11,700,240**	**5,599,760**
事業準備引当預金取崩	13,000,000	10,000,000	3,000,000
名簿刊行費引当預金取崩	1,200,000	1,200,240	△ 240
普及書出版引当預金取崩	800,000	0	800,000
年会開催補助費引当預金取崩	1,400,000	0	1,400,000
研究奨励費引当預金取崩	500,000	500,000	0
構造地質部会特別引当預金取崩	400,000	0	400,000
当期収入合計	**83,335,346**	**80,838,329**	
前期繰越収支差額	**19,314,654**	**19,314,654**	
収入合計	**102,650,000**	**100,152,983**	

支出の部	09年予算	09年決算	差　異
1. 事業費	**58,090,000**	**56,910,337**	**1,179,663**
(1)集会費	**15,970,000**	**14,756,858**	**1,213,142**
総会開催費	200,000	219,890	△ 19,890
年会開催費[6]	8,900,000	8,899,907	93
会場費・会場設営費	2,000,000	1,649,105	350,895
機器賃借料	1,300,000	1,484,177	△ 184,177
資料印刷費	2,100,000	1,986,850	113,150
アルバイト人件費	1,000,000	1,224,400	△ 224,400
文具費・郵送費	200,000	104,441	95,559
旅費・交通費	400,000	368,240	31,760
業務委託費[7]	1,600,000	1,785,115	△ 185,115
雑支出	300,000	297,579	2,421
年会普及事業開催費	400,000	356,225	43,775
資料・ポスター印刷費	200,000	59,850	140,150
雑支出	200,000	296,375	△ 96,375
年会地質情報展開催費	250,000	203,779	46,221
会場費	100,000	107,200	△ 7,200
資料・ポスター印刷費	150,000	96,579	53,421
諸集会費	1,220,000	820,560	399,440
理事旅費	900,000	800,560	99,440
支部長会議旅費	200,000	0	200,000
会計監査委員旅費	20,000	20,000	0
その他集会費	100,000	0	100,000
事業計画関連費[8]	5,000,000	4,256,497	743,503
(2)出版費	**22,060,000**	**23,873,692**	**△ 1,813,692**
ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸ事務局費	1,500,000	1,563,843	△ 63,843
アイランドアーク購読費	260,000	535,187	△ 275,187
地質学雑誌・ニュース誌印刷費	13,000,000	14,438,466	△ 1,438,466
地質学雑誌編集費	300,000	405,131	△ 105,131
雑誌・ﾆｭｰｽ誌送本費	5,000,000	5,755,065	△ 755,065
名簿刊行費	1,200,000	1,176,000	24,000
ﾘｰﾌﾚｯﾄ・普及書刊行費	800,000	0	800,000
(3)研究奨励費	**1,050,000**	**1,127,575**	**△ 77,575**
(4)補助費	**2,200,000**	**747,295**	**1,452,705**
支部補助費	700,000	665,725	34,275
専門部会・研究委員会	1,000,000	0	1,000,000
普及活動補助費	500,000	81,570	418,430
(5)学界交流助成費	**600,000**	**60,000**	**540,000**
(6)事業費関連管理費[9]	**16,210,000**	**16,344,917**	**△ 134,917**
人件費	10,800,000	10,995,085	△ 195,085
通信費	450,000	519,184	△ 69,184
旅費・交通費	240,000	246,565	△ 6,565
会議費	90,000	116,304	△ 26,304

事務所賃借料	2,500,000	2,487,864	12,136
光熱費	300,000	280,262	19,738
什器備品賃借料	900,000	744,397	155,603
消耗品費	600,000	317,814	282,186
雑費	330,000	637,442	△ 307,442
2. 管理費	**13,060,000**	**13,141,777**	**△ 81,777**
人件費	7,200,000	7,330,057	△ 130,057
退職金外部積立掛金	120,000	120,000	0
通信費	450,000	519,186	△ 69,186
旅費・交通費	10,000	9,625	375
会議費	210,000	271,375	△ 61,375
事務所賃借料	2,500,000	2,487,864	12,136
光熱費	300,000	280,262	19,738
什器備品賃借料	900,000	744,399	155,601
消耗品費	600,000	637,443	△ 37,443
雑費	770,000	741,566	28,434
3. 基本財産繰入支出[10)]	**10,000,000**	**10,000,000**	**0**
4. 特定引当金繰入支出	**0**	**523,981**	**△ 523,981**
総目録刊行費引当預金繰入	0	23,280	△ 23,280
退職金手当内部引当預金繰入	0	45,800	△ 45,800
普及書出版費引当預金繰入[11)]	0	437,887	△ 437,887
年会開催補助費引当預金繰入	0	12,577	△ 12,577
研究奨励費引当預金繰入	0	4,437	△ 4,437
5. 予備費	**1,000,000**	**0**	**1,000,000**
当期支出合計	**82,150,000**	**80,576,095**	
当期収支差額	**1,185,346**	**262,234**	
次期繰越収支差額	**20,500,000**	**19,576,888**	

＜注＞

1) 参加者が比較的多かったことと助成金等の収入が多かった.

2) 岡山コンベンション協会(40万)岡山工業振興会(5万)加計学園本部＝岡山理科大学(30万+会場借料の免除) 個人寄付(27万)

3) 新規リーフレット刊行遅れのため収入伸びず.

4) 法人の業務委託費12カ月分含む.

5) 収入で補えるもの, その他事業実行されなかったものは取り崩さず.

6) 会場借料の免除により経費を抑えることができた.

7) イベント会社への年会運営業務の委託(106万), 旅行代理店の参加費その他徴収業務の委託に要した費用(70万).

8) 広報事業, 地質の日, IYPE, ジオパーク, 地学オリンピック, 法人への拠出金, 年会参加登録システムの構築その他.

9) 事業管理費と一般管理費を割合によって分けて計上.

10) 基本財産の増額

11) 地方地質誌(近畿地方, 中国地方)編集委員会, デジタル地質学用語集編集委員会から印税の一部が寄付され普及書出版引当金に繰り入れた.

貸 借 対 照 表

2010年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	92,748		
預 金	54,016,108		
未収金	142,000		
立替金	6,594		
仮払金	0		
流動資産合計		54,257,450	
2. 固定資産			
(1)基本財産			
預 金	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
(2)その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000		
特定引当預金	37,576,714		
事業準備引当預金	10,300,000		
退職手当引当預金	8,651,129		
名簿刊行費引当預金	0		
年会開催補助費引当預金	6,096,585		
普及書出版引当預金	3,651,664		
総目録刊行引当預金	2,636,744		
研究奨励引当預金	3,030,592		
構造地質部会特別引当預金	3,210,000		
その他の固定資産合計	39,576,714		
固定資産合計		69,576,714	
資産合計			123,834,164
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	1,345,562		
未払金	0		
前受金	33,335,000		
流動負債合計		34,680,562	
2. 固定負債			
引当金	37,576,714		
事業準備引当金	10,300,000		
退職手当引当金	8,651,129		
名簿刊行費引当金	0		
年会開催補助費引当金	6,096,585		
普及書出版引当金	3,651,664		
総目録刊行引当金	2,636,744		
研究奨励引当金	3,030,592		
構造地質部会特別引当金	3,210,000		
固定負債合計		37,576,714	
負債合計			72,257,276
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			51,576,888
(うち基本財産)			(30,000,000)
(うち正味財産増加額)			(10,262,234)
負債及び正味財産合計			123,834,164

正味財産増減計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	262,234		
(1)基本財産増加額	10,000,000		
(2)その他の固定資産増加額			
特定引当預金増加額			
事業準備引当預金繰入額	0		
名簿刊行費引当預金繰入額	0		
退職手当引当預金繰入額	45,800		
年会開催補助費引当預金繰入額	12,577		
普及書出版引当預金繰入額	437,887		
総目録印刷費引当預金繰入額	23,280		
研究奨励引当預金繰入額	4,437		
特定引当預金増加額合計	523,981		
資産増加額合計		10,786,215	
2. 負債減少額			
引当金減少額			
事業準備引当金取崩額	10,000,000		
名簿刊行費引当金取崩額	1,200,240		
研究奨励引当金取崩額	500,000		
特定引当金取崩額	11,700,240		
負債減少額合計		11,700,240	
増加額合計			22,486,455
Ⅱ　減少の部			
1. 資産減少額			
(1)その他の固定資産減少額			
特定引当預金減少額			
事業準備引当預金取崩額	10,000,000		
名簿刊行費引当預金取崩額	1,200,240		
研究奨励引当預金取崩額	500,000		
	11,700,240		
資産減少額合計		11,700,240	
2. 負債増加額			
引当金増加額			
事業準備引当金繰入額	0		
名簿刊行費引当金繰入額	0		
退職手当引当金繰入額	45,800		
年会開催補助費引当金繰入額	12,577		
普及書出版引当金繰入額	437,887		
総目録印刷費引当金繰入額	23,280		
研究奨励引当金繰入額	4,437		
特定引当金増加額合計	523,981		
負債増加額合計		523,981	
減少額合計			12,224,221
当期正味財産増加額			10,262,234
前期繰越正味財産額			41,314,654
正味財産合計額			51,576,888

計算書類に対する注記（2009年度）

1. 重要な会計方針

1)引当金の計上について

・事業準備引当金：将来的な事業，前年度未完事業などのために引当．
・名簿刊行費引当金：次年会員名簿作成のために必要経費の一部を引当．
・年会開催補助費引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当．
・退職手当引当金：期末要支給額を見込んで引当．
・普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の出版に備え引当．
・総目録刊行費引当金：目録刊行取りやめのため，使用方針が決まるまで据え置き．
・研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当．
・構造地質部会特別引当金：旧構造地質研究会の残余金を暫定的に引当．

2)資金の範囲について

資金の範囲には現金，預金，未収金，立替金，仮払金，預り金，未払金，前受金を含める．
なお，期末残高は下記に示すとおりである．

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである．

科　目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
預　金	20,000,000	10,000,000	0	30,000,000
合計(基本財産)	20,000,000	10,000,000	0	30,000,000

・事業準備引当金を取り崩し，当期の増加額とした．

3. 次期繰り越し収支差額の内容は，次のとおりである．

科　目	前期末残高	当期末残高
現金(切手残高含)	380,482	92,748
預　金	73,437,689	54,016,108
未収金	102,000	142,000
立替金	1,646	6,594
仮払金	118,550	0
合　計	74,040,367	54,257,450
預り金	1,831,071	1,345,562
未払金	18,860,466	0
前受金	34,034,176	33,335,000
合　計	54,725,713	34,680,562
次期繰越収支差額	19,314,654	19,576,888

財　産　目　録

2010年3月31日現在
（単位：円）

科　　目		金　　額	
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金(現金及び切手手元有高)	92,748		
預貯金(別表のとおり)	54,016,108		
未収金	142,000		
立替金	6,594		
仮払金	0		
流動資産合計		54,257,450	
2. 固定資産			
(1)基本財産			
預　金	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
(2)その他の固定資産			
敷金・保証金(井桁ビル預け)	2,000,000		
特定引当預金	37,576,714		
事業準備引当預金	10,300,000		
退職手当引当預金	8,651,129		
名簿刊行費引当預金	0		
年会開催補助費引当預金	6,096,585		
普及書出版引当預金	3,651,664		
総目録刊行引当預金	2,636,744		
研究奨励引当預金	3,030,592		
構造地質部会特別引当預金	3,210,000		
その他の固定資産合計	39,576,714		
固定資産合計		69,576,714	
資産合計			123,834,164
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
預り金(ｱｲﾗﾝﾄﾞｱｰｸ購読料,社保料他)	1,345,562		
未払金(退職金他)	0		
前受金(2010年4月以降の会費他)	33,335,000		
流動負債合計		34,680,562	
2. 固定負債			
引当金	37,576,714		
事業準備引当金	10,300,000		
退職手当引当金	8,651,129		
名簿刊行費引当金	0		
年会開催補助費引当金	6,096,585		
普及書出版引当金	3,651,664		
総目録刊行引当金	2,636,744		
研究奨励引当金	3,030,592		
構造地質部会特別引当金	3,210,000		
固定負債合計		37,576,714	
負債合計			72,257,276
正味財産			51,576,888

2010年5月14日

日本地質学会
会長　宮下　純夫　殿

日本地質学会会計監査
山本　正司
青野　道夫

2009年度(平成21年度)会計監査報告

2009年度（平成21年度）の決算報告及び財産目録，並びにそれらに関連した帳簿，伝票，預金通帳などを監査した結果，これらはすべて正確であり，かつ適正に会計処理されたものであることを認めます．

以上

移譲契約書

日本地質学会（以下、「甲」という。）は、すべての権利、義務を一般社団法人日本地質学会（以下、「乙」という。）に移譲することとし、下記のとおり、契約書を交わすものである。

乙は甲の権利、義務を継承するとともに、甲の学術団体としての117年にわたる活動と、学術の進歩と普及、地質学の振興と社会への貢献、という目的をも継承し、今後これを発展させるものである。

記

（権利義務の継承）

第１条　甲は、本契約書の定める条項に従い、甲の事業の全部を乙に移譲し、乙はこれを継承するものとする。

２　移譲の期日は、甲の第116年総会の決定に従って2010年４月１日とする。

（継承の範囲）

第２条　前条により甲が乙に移譲すべき事業の範囲は、移譲日現在における次の各号に定めるものとする。

①　移譲日においての全所属会員。会員の身分、権利、義務については継承されるものとする。

②　甲が所有する現金および預貯金による資産のすべてと負債（内容は別添資料）

③　甲が所有する出版物および著作物の保有、発行の権利ならびに継続性の保持と義務。

④　事務所の賃貸、什器備品、OA機器のリース等の権利および債務。

⑤　その他、前号以外の甲の権利、義務に関わるすべてについて、乙がこれを継承するものとする。

（移譲財産の引き渡し）

第３条　甲は、移譲財産の明細を記載した引継書を作成し、当該引継書とともに移譲財産および関係帳簿類を乙に引き渡すものとする。

２　前項の移譲、引き渡しにつき、登録、承諾、通知等の諸手続を要するものについては、乙において行うものとする。

３　乙が本契約に基づき事業を行う場所は、甲が事業を行っていた場所を継承するものとする。

（労働債務の継承）

第４条　甲の事業に従事している職員（嘱託・パートタイマー等を含む）の雇用関係および退職金その他、事業移譲日までの事情に起因して発生する労働債務は、全てを乙が承継するものとする。

第５条　本契約は，甲及び乙が2010年５月23日にそれぞれ開催する総会において，本契約の承認が得られなかったときは，当然に失効する。

この契約締結の証として、本契約書正本２通を作成し、甲、乙の代表が記名捺印のうえ、各自１通を保有する。

2010年　４月１日

（甲）東京都千代田区岩本町２丁目８番１５号
日本地質学会
会　　長　　宮下純夫

（乙）東京都千代田区岩本町２丁目８番１５号
一般社団法人日本地質学会
代表理事　　宮下純夫

一般社団法人日本地質学会2010年度総会記事

議　事　録

以下のとおり，定時社員総会を開催した．

日時　2010年５月23日（日）18：45－19：45
会場　幕張メッセ国際会議場　304会議室

総会開始にあたり，議長･副議長，書記として，本日出席代議員の中から以下の方々を選出した．
議長：Simon Wallis；副議長：中澤　努；書記：延原尊美・古川竜太

議長より，本総会の１号議案から３号議案までは2009年度の役員・代議員によって審議することと，現時点での代議員出席者数は，委任状・議決権行使書を含め107名で，定款所定の定足数（72名）をこえる出席者があるので成立している旨宣言し，議事に入った．

１号議案　2009年度理事会報告
渡部常務理事から2009年度の理事会報告があり，特に質疑なく，賛成多数で本議案を承認した．

２号議案　2009年度事業・決算報告
会計担当の向山執行理事から報告と説明があった．
また，青野監事より，2009年度の会計については，適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった．租税公課についての質疑応答の後，賛成多数で本議案を承認した．（P.12－13参照）

３号議案　代議員および理事，監事選挙報告
松田達生選挙管理委員長から，代議員125名および理事49名，監事2名（会員１名および外部から１名）の選挙結果報告があり，特に質疑なく賛成多数で本議案を承認した．

＜約10分間の休憩＞

議長より，本総会の４号議案から７号議案までは2010年度の役員・代議員によって審議することと，現時点での代議員出席者数は，委任状・議決権行使書を含め104名で，定款所定の定足数（63名）をこえる出席者があるので成立している旨宣言し，議事に入った．

４号議案　代表理事（会長）・監事・執行理事の選出
2010年度第１回の理事会において以下のとおり選出したことが報告され，特に質疑なく賛成多数で本議案を承認した．

会長（代表理事）　宮下純夫
副会長　久田健一郎・渡部芳夫
執行理事　石渡　明・井龍康文・小嶋智・斎藤　眞・坂口有人・高木秀雄・内藤一樹・中井　均・西　弘嗣・平田大二・藤林紀枝・藤本光一郎・星　博幸・向山　栄　山口耕生
監事　青野道夫・山本正司

５号議案　2010年度事業計画
2010年４月１日付をもって日本地質学会からの事業を継承したことに基づく，2010年度の事業計画について宮下会長から説明があった．法人としての事業に対する基本的姿勢について質疑応答の後，賛成多数で本事業計画案は承認された．（P.15参照）

６号議案　2010年度予算
会計担当の向山執行理事から，2010年度の予算案について詳細な説明があった．とくに年会事業の収支には，今年度から懇親会および見学旅行の収支を加えること，また，人件費，事務所費などをはじめとする管理費については，事業ごとの管理費ともなるので，必要に応じて案分比例して折り込んだことなどが説明された．
事業収益については法人化のメリットを活かすべきとの意見や，交通費の質問など，質疑応答の後，予算案は賛成多数で承認された．（P.14参照）

７号議案　名誉会員の選出
名誉会員推薦委員会佃委員長より，名誉会員候補者としては４名の推薦があり，委員会は全員を候補者として選出したが，坂幸恭会員が逝去されたので，３名の会員を候補者として理事会に提案し承認されたこと，各候補者の推薦理由などが説明された．
これについては，物故者の業績や貢献を顕彰することについての意見が出たが，規則や名誉会員の定義等についても検討する必要のあることであり，現状ではNews誌等での紹介等で応えてはどうか，との応答があった．
その後，町田　洋会員・石原舜三会員・藤田　崇会員の３会員を名誉会員とすることを賛成多数で承認した．（P.16－17参照）

2010年５月23日

2009年度事業経過報告

１．報告事項
１）学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動
＜2009年度定時総会＞
日時：2009年５月17日　18：55-19：30
会場：幕張メッセ　国際会議場　302会議室
議決権のある当法人社員総数　146名
総社員の議決権の数　146個　出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）101名，
議決権の総数　101個，出席理事　36名，出席監事　１名
審議事項：1）理事会報告，2）2008年度事業・予算計画と決算報告，3）2009年度事業計画・予算案，4）追加議案
2009年度の役員について
いずれの議案も拍手をもって承認．
＜委員会等の開催＞
・執行理事会（12回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載
・理事会（３回）議事内容，報告等については，随時HP,ニュース誌に掲載
・その他委員会：各賞選考委員会（選考検討委員会，アイランドアーク賞選考委員会を設置し，該当賞の選考を諮問），名誉会員推薦委員会，選挙管理委員会など，メールによる会議を含め，随時開催．

２）その他報告事項（主なもの，そのほかはNews誌，HPに掲載の執行理事会議事録，理事会議事録参照）
＜特に他学協会との共催・後援，協賛行事，開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの＞
・青少年のための科学の祭典2009（科学技術振興財団主催，2009/08）の後援．
・2009地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展（土壌環境センター，日本産業機械工業会，産業洗浄協議会，フジサンケイビジネスアイ他主催，9/16-18）の協賛．
・朝日新聞社「第７回ジャパンサイエンス＆エンジニアリングチャレンジへ（JSEC 2009）」の後援．
・第35回リモートセンシングシンポジウム（11/5-6，日大文理学部）の協賛
・新潟大学理学部より「糸魚川ジオパーク展」（9/11-11/29，新潟大学旭町学術資料展示館）の後援．
・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会より「第10回子供のためのジオカーニバル」の後援．
・IYPE日本委員会への2009年度の協賛（協賛金25万円）．
・「北淡国際活断層シンポジウム2010」（2010年1/17-21日，淡路市，実行委員長中田高）の後援．
・産総研地質調査総合センターから，「地質情報展2010とやま」の共催．

・学術会議INQUA分科会，IUGS分科会より，公開シンポジウム「第四紀の時代―人類は残った」の共催．
・地震火山こどもサマースクール（地震学会・火山学会主催）の共催．

2．執行理事会および理事会議決・承認事項

1）執行理事の担当について学術研究と公益事業の強化のために，学術研究部会と社会貢献部会を増員
運営財政部会（2名）：総務・会計，広報部会（2名）：広報，学術研究部会（3名）：行事・国際交流・研究交流，編集出版部会（3名）：地質学雑誌・Island Arc・企画出版，社会貢献部会（3名）教育・継続教育・アウトリーチ

2）選挙管理委員会委員の選出
委員長：松田達生，委員：太田　亨，川上俊介，川村喜一郎，中島　礼

3）選挙細則および選挙管理委員会規則を承認した．

4）法人代議員・役員選挙の実施について，選挙システム・選挙スケジュールの承認．

5）公益法人化を急がず，当面は一般社団法人としての運営をしていくことを承認．

6）各賞選考規則と選考委員会規則の承認．
任意団体の規則を継承し，各賞選考委員会規則に選考検討委員会と利益相反防止の項目を追加．

7）各賞選考委員会委員の設置（前年度任意団体の委員が留任）
委員長：中川光弘，委員：高橋正樹，滝田良基，渡辺真人，村山雅史，吉川敏之，卜部厚志，北里　洋，高木秀雄，堀　利栄，職責委員：現，前，正副編集委員長（アイランドアーク含む）：狩野謙一，宮下純夫，久田健一郎，小嶋　智，岩森光，石渡　明，Simon WALLIS，井龍康文，前川寛和

8）リーフレット出版細則（一般リーフレット，国立公園地質リーフレット，たんけんシリーズ）を策定．

9）法人移行に伴う支部の会計については，本部会計と一本化することとした．

10）名誉会員推薦委員会規則は任意団体の規則を継承し，名誉会員推薦者に支部を加えることとした．

11）名誉会員推薦委員会の設置：委員長；佃栄吉副会長
各支部長（5名）：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），伊藤谷生（関東），原山　智（中部），宮田隆夫（近畿），臼井　朗（四国），大木公彦（西日本），階層別委員（4名）：大学：岡村　眞，小中高：紺谷吉弘，官公所：植村和彦，会社：足立勝治，執行理事会（1名）：石渡　明

12）利益相反防止，個人情報保護，除名の3規則，および倫理綱領の施行日は次の通り．
・一般社団法人日本地質学会利益相反防止規則 2009年10月3日（任意団体の規則を継承し修正，利益相反自己申告書等の管理・保管期間を5年と明示）
・一般社団法人日本地質学会個人情報保護に関する規則 2009年12月1日
・一般社団法人日本地質学会除名規則 2009年12月1日
・一般社団法人日本地質学会倫理綱領（任意団体のものを継承）2009年12月1日

13）会計処理規則の承認．

14）代議員選挙の開票立会人を2名選出．佐野貴司，竹内圭史

15）日本地質学会賞および国際賞，小澤賞の選考について，選考検討委員会を設置し選考を諮問した．
委員長：榎並正樹，宮下純夫，木村　学，鳥海光弘，石渡　明，磯崎行雄，久田健一郎，狩野謙一，井龍康文，前川寛和，Simon WALLIS，理事会推薦者（2名）倉本真一，公文富士夫
・Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した．

16）次の12名の会員を50年会員として顕彰することとした．
磯部重光　遠藤淳二　大原　隆　加藤祐三　蟹江康光　蟹沢聰史　柴山弘之　富沢昭文　降旗和夫　満岡　孝　宮崎　浩　吉田　尚*（*在会52年，名誉会員のため検索漏れ）

17）2010年度事業計画および任意団体日本地質学会から会員と事業の全てが当法人に移行されるものとして，任意団体地質学会からの譲渡財産および当法人の財産に基づく,2010年度予算案を承認した．【5号議案，6号議案】

18）名誉会員推薦委員会から提案された下記の3名の会員を総会に推挙することとした．【7号議案】
町田　洋会員　石原舜三会員　藤田　崇会員

19）2009年度事業報告を承認した．【2号議案】

20）各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した．（推薦文は1号議案P.17参照）
・日本地質学会国際賞（1件）
Juhn G. Liou（米国スタンフォード大学名誉教授）
対象研究テーマ：低温高圧・超高圧変成作用の研究と日本の地質学界への貢献
・日本地質学会 Island Arc賞（1件）
授賞論文: Fu-Yuan Wu, Jin-Hui Yang, Ching-Hua Lo, Simon A. Wilde, De-You Sun and Bor-Ming Jahn, 2007, The Heilongjiang Group: A Jurassic accretionary complex in the Jiamusi Massif at the western Pacific margin of northeastern China. Island Arc, 16, 156-172.
・日本地質学会小澤儀明賞（1件）
後藤和久（現：千葉工業大学惑星探査研究センター）
対象研究テーマ：地質学的手法による津波・高波災害履歴と規模の推定に関する研究
・日本地質学会論文賞（2件）
Sugawara D., Minoura K., Nemoto N., Tsukawaki S. Goto K. and Imamura F., 2009, Foraminiferal evidence of submarine sediment transport and deposition by backwash during the 2004 Indian Ocean tsunami. Island Arc, 18, 513-525.
宮田雄一郎・三宅邦彦・田中和広, 2009, 中新統田辺層群にみられる泥ダイアピル類の貫入構造．
地質学雑誌，第115巻，第9号，p 470-482.
・日本地質学会研究奨励賞（3件）
佐藤雄大（国交通省国土地理院測地部）
対象論文：佐藤雄大・鹿野和彦・小笠原憲四郎・大口健志・小林紀彦, 2009, 東北日本男鹿半島，台島層の層序．地質学雑誌，第115巻，第1号，31-46.
大橋聖和（広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻）
対象論文：大橋聖和・小林健太, 2008, 中部地方北部，牛首断層中央部における断層幾何学と過去の運動像．地質学雑誌，第114巻，第1号，16-30.
川上　裕（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）
対象論文：川上　裕・星　博幸, 2007, 火山―深成複合岩体にみられる環状岩脈とシート状貫入岩：紀伊半島，尾鷲―熊野地域の熊野酸性火成岩類の地質．地質学雑誌，第113巻，第7号，296-309.
・学会功労賞（1件）
杉山了三
功労業績：地域を生かし，生徒とともに創造する地学学習
・学会表彰（2件）
山口県
表彰業績：阿武火山群の火山灰層の保存と観察施設建設
地球システム・地球進化ニューイヤースクール（NYS）事務局（大坪誠・坂本竜彦・岡崎裕典・ほか）
表彰業績：地球科学系の若手研究者の継続的育成活動

21）5月23日開催予定の総会議案の承認．

22）理事会推薦の監事候補者を承認した．山本正司（山本司法書士事務所所長）

23）Island Arc編集事務局の学会事務局への統合に伴い，Island Arc編集委員会規則を改正することを承認．従来の編集事務局長（2名）が副編集長（1名）へと変更．

3．代議員および役員選挙の実施

1）選挙規則ならびに選挙細則に基づき，代議員選挙，理事および監事選挙を行った．【3号議案】

一般社団法人日本地質学会平成２１年度収支計算書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

（単位：円）

収入の部	21年度予算	21年度決算	差　異
1．拠出金受け入れ	**0**	**341,877**	△ 341,877
拠出金(1	0	341,877	△ 341,877
2．その他	**0**	**341**	△ 341
預金利子	0	341	△ 341
当期収入合計	**0**	**342,218**	
前期繰越収支差額	**1,238,808**	**1,238,808**	
収入合計	**1,238,808**	**1,581,026**	
支出の部			
1．事務委託費	**720,000**	**720,000**	0
業務委託費(2	720,000	720,000	0
2．その他	**503,300**	**821,778**	△ 318,478
租税公課	23,300	33,300	△ 10,000
通信費	470,000	0	470,000
選挙費		785,978	
雑費	10,000	2,500	7,500
当期支出合計	**1,223,300**	**1,541,778**	
当期収支差額	**△ 1,223,300**	**△ 1,199,560**	
次期繰越収支差額	**15,508**	**39,248**	

1)　任意団体日本地質学会からの拠出金
2)　任意団体日本地質学会への業務委託費

正味財産増減計算書

自　平成２１年４月　１日
至　平成２２年３月３１日

一般社団法人　日本地質学会　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
拠出金収入	341,877	1,600,000	△ 1,258,123
利息収入	341	38	303
経常収益計	342,218	1,600,038	△ 1,257,820
(2) 経常費用			
管理費			
業務委託費	720,000	240,000	480,000
租税公課	33,300	111,750	△ 78,450
選挙費	785,978	0	785,978
雑費	2,500	9,480	△ 6,980
経常費用計	1,541,778	361,230	1,180,548
当期経常増減額	△ 1,199,560	1,238,808	△ 2,438,368
2．経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,199,560	1,238,808	△ 2,438,368
一般正味財産期首残高	1,238,808	0	1,238,808
一般正味財産期末残高	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	39,248	1,238,808	△ 1,199,560

貸　借　対　照　表

平成22年3月31日現在

一般社団法人　日本地質学会　　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1.流動資産			
現預金	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
流動資産合計	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
2.固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
Ⅱ 負債の部			
負債合計	0	0	0
Ⅲ 正味財産の部			
1.指定正味財産	0	0	0
2 一般正味財産	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
正味財産合計	39,248	1,238,808	△ 1,199,560
負債及び正味財産合計	39,248	1,238,808	△ 1,199,560

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2．担保に供している資産

該当なし

3．保証債務等の偶発債務

該当なし

4．重要な後発事項

該当なし

2010年5月14日

一般社団法人日本地質学会
会長　宮下　純夫　殿

一般社団法人日本地質学会会計監査
山本　正司
青野　道夫

2009年度(平成21年度)会計監査報告

2009年度（平成21年度）の財務諸表，並びにそれらに関連した書類，預金通帳などを監査した結果，これらはすべて正確であり，かつ適正に会計処理されたものであることを認めます．

以上

収 支 予 算 書

（自　平成 22年　4 月　1 日
　至　平成 23年　3 月 31 日）

（単位：円）

科　　目	予　算　額	前年度予算額	増　　減	備　　考
Ⅰ. 一般正味財産増減の部		（注1）		
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収入	50,000	50,000	0	
特定資産運用収入	20,000	80,000	△ 60,000	
会費収入	45,000,000	46,830,000	△ 1,830,000	
事業収入				
出版事業収入	9,900,000	9,000,000	900,000	
年会開催事業収入	10,900,000	7,700,000	3,200,000	
普及事業収入	650,000	1,000,000	△ 350,000	
支部・部会等活動事業収入	740,000	—	740,000	
事業収入計	22,190,000	17,700,000	4,490,000	
補助金・寄付金等収入	2,100,000	—	2,100,000	
雑収入	580,000	1,375,346	△ 795,346	
経常収益計	69,940,000	66,035,346	3,904,654	
(2) 経常費用				
事業費				
出版事業費	34,135,000	22,060,000	12,075,000	
年会開催事業費	14,760,000	15,320,000	△ 560,000	
普及事業費	4,020,000	650,000	3,370,000	
支部・部会等活動事業費	2,700,000	2,200,000	500,000	
研究奨励事業費	1,000,000	1,650,000	△ 650,000	
事業管理費	—	16,210,000	△ 16,210,000	（注2）
事業費計	56,615,000	58,090,000	△ 1,475,000	
管理費				
人件費	8,600,000	7,320,000	1,280,000	
旅費交通費	1,120,000	10,000	1,110,000	
事務所賃借料	2,500,000	2,500,000	0	
事務諸費	3,145,000	2,460,000	685,000	
雑費	960,000	1,993,300	△ 1,033,300	
管理費計	16,325,000	14,283,300	2,041,700	
経常費用計	72,940,000	72,373,300	566,700	
当期経常増減額	△ 3,000,000	△ 6,337,954	3,337,954	
2. 経常外増減の部	—	—	—	
当期一般正味財産増減額	△ 3,000,000	△ 6,337,954	3,337,954	
一般正味財産期首残高	51,616,136	42,553,462	9,062,674	
一般正味財産期末残高	48,616,136	36,215,508	12,400,628	

科　　目	予　算　額	前年度予算額	増　　減	備　　考
Ⅱ. 指定正味財産増減の部	—	—	—	
Ⅲ. 正味財産期末残高	48,616,136	36,215,508	12,400,628	

（注）1. 「前年度予算額」については、便宜上「日本地質学会」と「一般社団法人 日本地質学会」とを合算して表示している。

2. 「事業管理費」は、前年度までは一括して表示していたが、当年度から各事業に含めて表示している。

2010年度事業計画骨子

事業基本方針：実質的な一般社団法人としての活動元年にあたり，地質学の広範な認知と理解，地球科学コミュニティの強化を目指して，1）学術研究事業と国際連携の一層の推進，2）地質学の教育・普及，社会貢献の推進，3）情報発信機能と学会組織・活動の強化という3つの柱のもとに事業を展開する．従来以上に公益的な社会貢献事業や広報活動の充実を図るとともに，事業を進めるための財政基盤の確立に努める．これらの事業の遂行にあたっては，支部や専門部会での活動が重要であり，今後はこれらの活動の強化推進を図ることを重要な課題とする．

1．学術研究事業と国際連携の推進

1−1. 第117年学術大会（富山大会）における国際交流ならびに他団体との連携
アジアセッションの開設とモンゴル地質学会副会長の招待，日韓交流の定着化：韓日地質学会室戸大会の開催と地質学会会長の招待，糸魚川ジオパークの活用による巡検の実施，支部による年会開催地（校）の決定と積極的支援体制の確立

1−2. 日本地球惑星科学連合2010年大会
地質学会関連セッションの充実による参加促進

1−3. 学術研究成果の発信
地質学雑誌の充実をはかりインパクトファクターへの登録推進の継続・地質学雑誌の一般販売の促進
Island Arc隔月化の早期実現

1−4. 国際交流の強化
日韓，日タイ，日モンゴル学会間の連携と交流の推進
フィリピン，ベトナムなどの地質学会との交流協定の締結推進
アジア諸国との連携強化と国際的な学術研究の推進
学術会議を通じてのIUGSとの連携

1−5. 学協会との連携推進
学術大会・セッションの共同開催，各種事業の共催・協力

2．普及・教育・啓発活動

2−1. 地学オリンピックへの支援：2012年日本大会開催準備支援

2−2. ジオパーク運動への支援のさらなる展開と自治体との連携強化
新たなジオパーク認定への支援・既認定ジオパークの活用と協力・国際連携

2−3. 各支部も含め「地質の日」のイベント実施および惑星地球フォトコンテスト第2回の実施と恒例化による普及活動の推進

2−4. 広報誌「ジオルジュ」の定期的発行の実現、その他出版および出版協力活動の展開

2−5. Web 充実による学術・教育情報の発信の強化

2−6. 理科教育に関する積極的提言活動，連合教育問題検討委員会との連携

2−7. リーフレットの発行（2企画+α）など普及書の企画・発行と普及

2−8. マスコミとの連携（プレスリリース，勉強会の開催，対応窓口の整備など）

3．社会貢献事業

3−1. 自然災害対応の充実・強化（情報の収集・発信および他学会との連携体制の確立など）

3−2. 地質関連人材養成・派遣・斡旋事業の新展開

3−3. 地質技術者支援事業の展開

3−4. 地質学に関する公益的事業の検討

4．組織整備強化

4−1. 公益事業推進のための財政基盤と執行体制の確立

4−2. 法人としての中長期ビジョンの策定と実行

4−3. 支部や専門部会の活性化と理事会との連携強化

4−4. 事務局体制の強化と学会事務所の整備推進継続

5．会員サービスの向上をはかり、会員減少への具対策を検討

5−1. 情報高度化による会員サービスの強化（Webの充実，システムの高度化，会員カード）

5−2. 地質学関連のグッズ開発と会員への提供

5−3. 学生・院生会員への就職情報の提供と支援

5−4. シニア会員の定着と活躍の場の提供

2010年度
名誉会員候補者推薦理由

一般社団法人日本地質学会
名誉会員推薦委員会　委員長　佃　栄吉

名誉会員候補者の対象として4名の会員の推薦があり，推薦委員会として選考の結果，（1名逝去につき）3名を名誉会員候補者として推薦することといたしました．

町田　洋会員（1933年2月7日生まれ，77歳）

町田　洋会員は1957年に東京大学理学部地学科地理学専攻を卒業され，さらに同大学院理学系研究科地理学専攻修士課程を1959年に修了し，同年，東京都立大学理学部地理学科に助手として赴任された．1962年に「最近数十年～数百年間の山地斜面と谷の浸食史」で理学博士の学位を取得された．都立大学では1968年に助教授，1978年に教授に昇任され，1996年同大学を定年退職し，同時に東京都立大学名誉教授の称号を授与された．

時間指標としてのテフラの重要性に早くより認識され，まず，富士山を中心にテフラを用いた火山発達史，周辺地域の地形発達史の研究に取り組まれた．研究対象はさらに箱根火山とその東側の大磯丘陵，南関東に広がり，激しい地殻変動を受けたこの地域の複雑な地形発達史を，富士・箱根火山のテフラを時間指標として海水準変化・気候変化と関係付けながら明らかにされている．町田会員の特筆すべき業績の一つは，広域テフラの発見である．約3万年前に南九州で発生し大規模なシラス台地を作った巨大噴火（入戸火砕流）は，その降下テフラ（姶良－丹沢火山灰AT）が日本全国のみならず朝鮮半島や大陸沿岸と周辺海域を含む広域を覆ったことを，1976年に故新井房夫と共に，堆積物の記載岩石学的な特徴による同定・対比を取り入れて明らかにされた．その後，鬼界－アカホヤ火山灰（K-Ah），Aso4火山灰など第四紀中後期の広域テフラを次々に発見し，第四紀における同一時間面をシャープに示す時間指標としてのテフラの位置を確立された．この成果は，地形発達史や微化石，堆積物層序研究と深く結びついて，日本列島とその周辺における高分解能の海水準変化，気候変化，環境変化の復元に大きく活用されている．さらに，ATやK-Ahは考古学においても旧石器～縄文時代の重要な時間指標として日本のみならず東アジアの遺跡の編年解明に活用されている．広域テフラ研究の成果は1992年に「火山灰アトラス」としてまとめられ，日本の第四紀研究に不可欠な資料として現在も活用されている．

町田　洋会員はこのように日本におけるテ

フラ研究の第一人者であり，その成果と功績は海外においても高く評価され，1987年から1995年まで国際第四紀学会（INQUA）のCommission on tephrochronology（COT）の副委員長及び委員長に推挙された．また，1991年～2002年まで連続して学術会議の第四紀研連の委員及び委員長を歴任され，2003年～2005年には日本学術会議会員・地質科学総合研連委員長を務められた．また，2005年～2008年には日本第四紀学会会長を務められ，2009年には同学会より学会賞を受賞された．1996年以降早稲田大学エクステンションセンターのオープンカレッジ講師を務められ，第四紀学，地質学や地形学の普及に努力されている．また，2008年から日本ジオパーク委員会の副委員長として，ジオパークの普及・啓発にご尽力されている．

テフラ研究の対象を第四紀の前半にも発展させ，その成果に基づいて，近年は日本アルプスの隆起開始時期解明等の日本列島の構造発達史に関わる研究にも取り組んでおられる．これら長期にわたるテフラ研究分野での世界的な研究成果と日本の第四紀地質学に対する多大な貢献により町田　洋会員を名誉会員として推薦する．

石原舜三会員（1934年 3 月10日生まれ, 76歳）

石原舜三会員は1956年広島大学理学部地学科を卒業後，地質調査所に入所，ウラン鉱床探査に従事, 1961年に米国に渡り，コロラド鉱山大学およびコロンビア大学の大学院に学び，ニューメキシコ州Questa鉱山のモリブデン鉱床の研究により修士号を授与された．その後ドイツに遊学された後1964年に地質調査所に復帰された．モリブデン鉱床を始めとする花崗岩類に伴う鉱床の研究を続け，1970年には東京大学から博士号を授与された．1978年に鉱床部鉱床研究課長に，1985年には鉱床部長を歴任された．1978年から2年間，東北工業試験所長，1989年から地質調査所所長，1991年から工業技術院院長という行政の要職に従事された，さらに，北海道大学教授として念願の研究に復帰されている．現在は産業技術総合研究所特別顧問として後輩の指導に務められている．

石原舜三会員の最も特筆すべき業績は花崗岩系列と鉱化作用の関連性について新しい理論を確立したことである．花崗岩類の岩石化学的変化に対する従来の支配的な考え方はマグマの結晶分化作用によるものであったが，石原舜三会員は花崗岩類が磁鉄鉱系列とチタン鉄鉱系列に大別でき，両者の違いは主として酸素分圧の相違に基づくマグマの差によるものであり，それぞれの花崗岩類には特有の金属鉱床が付帯することを明確にした．この学説は金属鉱床探査の上で，非常に有効なもので，帯磁率の測定は鉱床探査の折に必ず実施されている．

これらの多大なる石原舜三会員の業績が認められ，1984年に日本鉱山地質学会の加藤武夫賞，1988年には日本地質学会賞，1989年にSociety of Economic GeologistsのSilver Medalを受賞されている．また2009年にはオーストラリアのタウンズビルで開催された第10回鉱床地質学会（The Society for Geology Applied to Mineral Deposits（SGA））大会において，「花崗岩における金属鉱床の成因に関する科学的貢献」のためにSGA-ニューモント-ゴールドメダルを受賞されている．さらに中国地質科学院名誉フェロー，米国地質学会名誉フェロー，ロシア科学アカデミー在外会員などにも選出されている．

石原舜三会員はSociety of Economic Geologistsのアジア地域代表の副会長として貢献され，また日本鉱山地質学会（現資源地質学会）の編集長，会長として学会の運営に携わってこられた．黒鉱鉱床に関する最初の総括的な書籍である「Geology of Kuroko Deposits」（1974年，鉱山地質特別号）の編集など多くの特別号の編集もされている．

石原舜三会員は「地質に対するあくなき好奇心と研究魂」を後進に示し続けておられる．現在もなお年間で数回にわたる国内・海外の調査，数編の論文を執筆，シンポジウムの企画・実行をされている．この固体地球の研究に立ち向かう旺盛な精神こそ私達は見習う必要がある．これら石原会員の長年にわたる岩石・鉱床学分野の研究業績と地質学の発展に対する世界的な貢献により石原舜三会員を名誉会員として推薦する．

藤田　崇会員（1935年 4 月22日生まれ, 75歳）

藤田　崇会員は，1958年に大阪市立大学理工学部地学科を卒業され，1971年 9 月に大阪市立大学から理学博士の学位を取得されている．大学卒業後，すぐに原子燃料公社（現日本原子力研究開発機構）に入社され，人形峠でウラン鉱床の探査に従事されている．1973年には大阪工業大学工学部助手として着任され，その後講師・助教授を経て，1975年に教授に昇進されている．2001年 3 月に退職され，名誉教授となられている．

藤田　崇会員は，応用地質学・環境地質学が専門で，ことに自然災害科学の分野で多大な功績をあげられた．なかんずく，斜面災害の分野における地質学的研究は，亀の瀬地すべりの研究をはじめ，四国三波川変成帯や新第三系の地すべりの発生機構の解明に大きな貢献をされた．各地域での地すべりの地質学的研究から，地質規制（岩相規制と地質構造規制）の概念を提唱し，地すべりの地質学的研究を体系化された．さらに，地すべりの発生年代の研究から，地すべりの発生が第四紀変動による山地の上昇と密接に関連していることを示された．当時，このことを理解した研究者は少なかったが，故藤田和夫名誉会員はこの成果を高く評価された．最近になって，このような研究が増えていることは藤田　崇会員の先見性が実証されつつあることの証左である．

地すべり研究における藤田　崇会員の特徴は，地質・地形データの融合である．地質的特性を定量的に表すために，地形学の手法を取り入れ，これにより地すべりと地質との関連を，定量的な評価ができる手法を開発した．この手法を用いて，地質体ごとの地すべりの特性を明確にすることが可能となった．この研究成果に対し，1996年に日本地すべり学会から論文賞が与えられた．

1986年に，地質学論集28号として「斜面崩壊」が刊行された．その編集責任者は藤田崇会員である．本書は半年で完売し，追加印刷をしたが，これも完売となり，地質学論集始まって以来の出来事となった．また，地質学会100周年事業委員として活躍されたほか，当時の将来検討委員会の応用地質分会委員長を務められた．さらに，日本地形学連合では運営委員となり，会長も務められた．

多くの論文の他，編著書の多くが好評で，「地すべり－山地災害の地質学」（共立出版），「地すべりと地質学」（古今書院）は，環境地質学・応用地質学にとっても名著であり，両者ともロングセラーである．また，日本応用地質学会刊行の「斜面地質学」は，地すべり研究者の必携書とされ，完売となった．

官公庁などの委員を数多く務められ，斜面災害対策における地質学的アプローチの重要性を他の分野の研究者，技術者，さらには行政担当者（とくに当時の建設省の技官）などに強く認識させたことはきわめて重要な貢献である．

藤田　崇会員は山地災害が自然環境の破壊をもたらした様相の詳細な観察，それに基づく地質学的要因の解明など，長年の災害研究を通して環境地質学の発展に多大な貢献をされた．以上の功績により藤田　崇会員を日本地質学会の名誉会員として推薦する．

2010年度50年会員顕彰者（12名）
1960年1月～12月入会

磯部重光・遠藤淳二・大原　隆・加藤祐三・蟹江康光・蟹沢聰史・柴山弘之・富沢昭文・降旗和夫・満岡　孝・宮崎　浩・吉田　尚*
（*在会52年，名誉会員のため検索漏れ）

2010年度
日本地質学会各賞受賞理由

一般社団法人日本地質学会
各賞選考委員会　委員長　中川光弘

2010年度各賞に関して，授賞者と受賞理由を報告致します．

1．日本地質学会賞：該当者なし

2．国際賞（1件）

受賞者：Juhn G. Liou（米国スタンフォード大学名誉教授）
対象研究テーマ：低温高圧・超高圧変成作用の研究と日本の地質学界への貢献

Juhn G. Liou（劉 忠光）氏は，水・岩石相互作用の研究，低温変成作用，高圧・超高圧変成作用の研究において，それらの分野を世界的にリードするとともに，日本の地質分野の人材育成と教育にも大きく貢献した．

Liou氏は1962年に国立台湾大学で学位取得後，カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院在学期（1965～1970），アメリカ航空宇宙局有人宇宙機センター（現，ジョンソン宇宙センター）在職期（1970～1972），スタンフォード大学在職期（1972～現在）を通して，沸石，ぶどう石，パンペリ石，緑れん石などの含水Ca-Al珪酸塩鉱物の安定領域の決定を行い，水・岩石相互作用及び低温変成作用から，高圧・超高圧変成作用とそれに関連する造山運動へと研究を発展させていった．この一連の研究キャリアの中で，数多くの日本人地質研究者と学術交流し，共同研究を行ってきた．1976年のグッゲンハイム研究奨学金による日本滞在以来，頻繁に共同研究員や客員スタッフとして日本に滞在し，大学院生を含む幅広い研究者たちと積極的に交流を深めた．また，日本から若手研究者・ポスドクを積極的に受け入れ，若手研究者らの国際舞台への進出を援助した．

Liou氏は，これまでに342編の論文と10編の著書を公表し，2007年にはISI Web of Scienceにおいて，被引用数に関してトップ10地球科学者に選ばれた．論文のうち106編は日本人との共著である．9編の学術雑誌の特集号編集にも携わり，そのうちの3編はIsland Arc誌である．こうした，彼の長年にわたる米日間学術交流に対する貢献は，2002年に全米科学財団国際共同事業センター（日本）フェロー受賞の形で認められた．2005年に公式に教員職を退いた現在も教育・研究の現場で後輩の教育に力を入れており，Island Arc誌編集顧問や，Journal of Asian Earth Sciences誌の編集委員など，アジアの地質学分野の発展に尽力している．

彼の学術的功績は，米国鉱物学会賞（1977年），米国鉱物学会フェロー（1978年），米国地質学会フェロー（1979年）の受賞などとして既に認められているが，上述のように，アジア諸国，とりわけ，日本の地質学コミュニティーにおいて，人材育成・教育に関する貢献は極めて大きく，一連の功績は日本地質学会国際賞にふさわしい．

3．日本地質学会Island Arc賞

受賞論文：Fu-Yuan Wu, Jin-Hui Yang, Ching-Hua Lo, Simon A. Wilde, De-You Sun and Bor-Ming Jahn, 2007, The Heilongjiang Group: A Jurassic accretionary complex in the Jiamusi Massif at the western Pacific margin of northeastern China. Island Arc, 16, 156-172.

This paper paid attention to the Heilongjiang complex in the western margin of the Jiamusi Massif, NE China, to understand the tectonic setting of the eastern Asian continental margin in the Jurassic. It provides geological and chronological data of metamorphic rocks from the complex, showing that the Heilongjiang complex is a tectonic m_lange of an Early Jurassic accretionary complex. The authors propose a new idea that a continental margin existed at least since the Early Jurassic along the eastern Asian continental margin and was affected by the Late Jurassic to the Cretaceous subduction and accretionary processes. This paper has been stimulating recent researches on tectonic re-interpretation of the continental blocks and accretionary complexes in eastern Asia. It will also make great contribution to future researches on geodynamic evolution of the eastern Asian continental margin.

This paper received the highest number of citations - based on the Thomson Science Index for the year 2008 - amongst all the candidate Island Arc papers published in 2006-2007. The first author has been engaged in geological and chronological studies of eastern Asia for many years and published many other important papers on Asian geology in international journals. In view of the scientific impact of the paper and international scientific activity of the first author, the Judge Panel recommends this paper for the 2010 Island Arc Award.

4．日本地質学会小澤儀明賞（1件）

受賞者：後藤和久（千葉工業大学惑星探査研究センター）
対象研究テーマ：地質学的手法による津波・高波災害履歴と規模の推定に関する研究

津波や台風に伴う高波など，過去の巨大災害の履歴や規模を知ることは防災上極めて重要であり，地質学が社会に直接的に貢献できる研究テーマでもある．その評価材料として，各国沿岸に分布する数メートル大の巨礫群に関心が集まっているが，津波起源の巨礫の認定と水理量算出の難しさゆえ，この分野の研究は進展していなかった．

同氏は，奄美大島から石垣島に渡る広範囲の島々で，総計5000個もの巨礫の分布をリーフ上で調査し，台風起源の巨礫群は，指数関数曲線で示される明瞭な陸側分布限界線を持つことを明らかにした．この限界線を用いれば，それより内陸側にある巨礫群は津波により運搬されたと認定できる．同氏の研究成果に基づけば，1771年明和津波の被災地域である宮古一八重山諸島にしか津波起源の巨礫群は存在せず，奄美諸島や沖縄諸島においては過去数千年間，巨礫を移動させるような巨大津波が発生した痕跡は無い．これは，琉球海溝での過去の地震履歴の解明や明和津波の波源推定にも繋がっていく，画期的な成果である．さらに同氏は，2004年インド洋大津波によって運搬されたタイ・パカラン岬の巨礫群の分布や特性を津波直後に丹念に調べ上げ，数値計算結果を組み合わせることで，巨礫のサイズ・空間分布から，津波流況および津波波高や水理量を定量的に復元できることを世界で初めて示した．

このように，約5年間に渡る同氏の精力的な研究により，世界中に分布する沿岸巨礫群から津波起源のものを認定できるようになり，津波の水理量をも推定できるようになった．巨礫の打ち上げ年代の測定も合わせて行えば，過去の巨大津波の履歴と規模を同時に知ることができ，画期的な進歩といえる．

同氏は，専門とする野外地質学的研究に，津波工学分野の新技術を積極的に取り入れ両分野を融合させた新しい研究分野を独自に切り開いた．その成果として，別紙に示したように，3年の短期間で質の尚い論文を多数山している．今や，同氏の研究とその調査地域である琉球列島の巨礫群は，世界の津波研究者から大いに注目されている．例えば，①2008年AGUJointAssemblyでの招待講演，②2009年6月に米国地質調査所の研究者の依頼を受けて，石垣島で共同調査を実施，③来年開催予定の国際津波シンポジウムを日本に誘致し石垣島での巡検を企画，など，この分野における世界での存在感を存分に示している．その一方で，著書の執筆やメディア発信，市民向け講演会を数多く行い，自治体の防災対策にアドバイスを行うなど，普及活動にも尽力

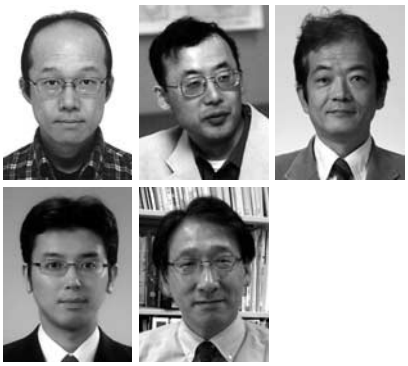
している．

以上の実績から，同氏は小澤儀明賞に相応しいと考えられる．

5．柵山雅則賞：推薦なし

6．日本地質学会論文賞（2件）

受賞論文：Sugawara D., Minoura K., Nemoto N., Tsukawaki S. Goto K. and Imamura F., 2009, Foraminiferal evidence of submarine sediment transport and deposition by backwash during the 2004 Indian Ocean tsunami. Island Arc, 18, 513-525.



本論文は，2004年インド洋でおきた津波による砕屑物の挙動を，タイ南西部で，津波前後の海岸から沖合までの堆積物中の有孔虫の証拠から明らかにしたものである．これまでの多く報告されている海岸遡上津波堆積物は実際に期待される津波周期よりも保存されている割合が少なく，これは海岸の堆積物が比較的容易に再移動されてしまうためと考えられる．本論文では，津波の前，津波直後および1年後という得難いコア資料において有孔虫指標の比較をおこない，砕屑物の運搬過程を推定している．このように微化石群集に基づく堆積物の挙動の可視化は，イベント堆積物研究の新たな着眼点であり，論文賞に値するものである．

受賞論文：宮田雄一郎・三宅邦彦・田中和広，2009，中新統田辺層群にみられる泥ダイアピル類の貫入構造．地質学雑誌，第115巻，第9号，p 470-482.

本論文は下部中新統田辺層群にみられる泥ダイヤピル構造の形成要因を明らかにしたものである．筆者らは野外における詳細な産状記載から上昇機構を推定し，それらに基づく検証実験や，現在の海底や内陸部で活動する泥火山・ダイヤピル活動との比較を行っている．このような手法は，野外における堆積相解析の精度を向上させるだけではなく，様々の形成要因の検討を可能にしている．また，露頭での詳細な解析からは田辺層群の急激な海水準上昇やテクトニクスなど時代的背景との関連性の推定もおこなわれている．本論文はこのように堆積学研究の解析能力を十分に発揮しており，論文賞に値するものである．

7．日本地質学会小藤賞：該当なし

8．日本地質学会研究奨励賞（3件）

受賞者：佐藤雄大（国交通省国土地理院測地部）
受賞論文：佐藤雄大・鹿野和彦・小笠原憲四郎・大口健志・小林紀彦，2009，東北日本男鹿半島，台島層の層序．地質学雑誌，第115巻，第1号，31-46.

本論文は，著者らの長年にわたる地道な野外調査で蓄積した知見を背景として，東北日本の日本海側の新生界の模式的地域の下部中新統台島層について，精密な調査の結果を報告している．この層は，広域対比に用いられる台島型植物群を産することからも重要である．佐藤らは，岩相層序・古地磁気層序・火山学的な堆積機構を検討し，台島層がカルデラとその周辺に堆積・定置したさまざまな岩体の集合体であることを明らかにした．これは，東北日本でグリーンタフ層準のカルデラを発見した最初の論文でもある．また，下位の門前層と上位の西黒沢層との関係も明確にした．これらの結果，台島層とそれをとりまく地層の層序に関する長年の論争に，ほぼ決着をつけたと言える．本研究は一地域の層序に関するものであるが，調査の精密さは賞賛に値するものであり，また，グリータフ地域の標準層序の改訂という，広い波及効果をもつ．これらのことから，本論文は地質学会奨励賞にふさわしい．

受賞者：大橋聖和（広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻）
受賞論文：大橋聖和・小林健太，2008，中部地方北部，牛首断層中央部における断層幾何学と過去の運動像．地質学雑誌，第114巻，第1号，16-30.

標記論文は中部地方北部に分布する，北東―南西方向の右横ずれ活断層系牛首断層について，詳細な野外調査に基づき断層の幾何学，運動像および構造発展史を解析したものである．本論文はまず，断層面の走向の頻度分布を検討し，牛首断層の一般走向に反時計回りに10－20°斜交するR1剪断面が優勢であることを明らかにした．また，北東―南西方向の断層が北北東―南南西方向の断層に繋がれ断層屈曲部を形成し，断層屈曲部に左横ずれに伴う伸張デュープレックスが形成されたと推察した．したがって，反時計回りに斜交するR1剪断面も含めて，牛首断層はもともと後期白亜紀に左横ずれ断層として形成され，その後第四紀に右横ずれ活断層として再活動したと考えられる．本論文で明らかにされた断層の幾何学や構造発展史は確実性が高く，今後，日本列島内陸活断層の起源の研究において標準ともなるべき優れた研究である．よって，本論文は研究奨励賞に値する．

受賞者：川上　裕（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）
受賞論文：川上　裕・星博幸，2007，火山ー深成複合岩体にみられる環状岩脈とシート状貫入岩：紀伊半島，尾鷲ー熊野地域の熊野酸性火成岩類の地質．地質学雑誌，第113巻，第7号，296-309.

この研究は，熊野酸性岩類北部の火砕流堆積物と花崗斑岩の詳細な地質調査と顕微鏡観察に基づいて，花崗斑岩岩体が「コールドロンの環状岩脈とそれから派生した巨大なシート状貫入岩体」であるとする結論を導き，花崗斑岩は溶岩湖が固結したものであるとした従来の見解を否定している．南部の岩体に関する他の研究者の最近の研究結果にヒントを得たようではあるが，貫入境界をこれほど綿密に追跡した研究は珍しく，独自の調査事実に基づいて新しいモデルを提案している点も評価できる．今後の更なる成果を期待して，研究奨励賞候補論文として推薦する．

9．学会功労賞（1件）

受賞者：杉山了三
功労業績：地域を生かし，生徒とともに創造する地学学習

杉山会員は昭和46年に岩手県で高校教員となり，その後現在まで地域を生かした地学教育を生徒ともに創造してこられた．現在，高校の地学教育は必修ではなく，それぞれの学校に勤務する地学教員の地道な努力によって，やっと選択授業として地学が開設されるという状況にある．そのように困難な状況にもかかわらず，杉山会員は勤務地の地域地質を活かした学習指導，生徒の地学研究の指導に精力的にとりくみ，それらは多くの受賞に結実している．そして，杉山会員の地学教育へのひたむきな努力を見て育った生徒が大学の地学関係学科へ進学したり，卒業後地学教員や地質技術者として活躍する姿となって，次の世代に伝わりつつある．

杉山会員は初任校の種市高校では南部潜りを伝える水中土木科に所属し，潜水したりしながら海底の白亜系の巨大な珪化木等を調査した．次の一戸高校では馬淵川沿いの河岸段丘を調べ，県の理科発表会で発表した．三番目の遠野高校では，遠野盆地の地質（遠野物

語では遠野は大昔湖であったと書かれているがこれは本当か）を６年継続して研究．平成７年から５年連続して学生科学賞に入選し，平成12年には環境庁長官賞を受賞した．さらに遠野盆地の研究は，これを教材化するという形でまとめ，国立科学博物館主催の平成19年度野依科学奨励賞を受賞した．盛岡一高では，雫石町の舛沢層と火山豆石の研究，ドミノで地震波を再現する実験などを生徒といっしょに研究し，学生科学賞の県代表に2度選ばれた．その一部は2007・2008年度の地球惑星連合大会「高校生のポスターセッション」で発表している．最近では地域の教材を活かした「ミニ造岩鉱物セット」を作成したり，生徒が作れる簡易な岩石薄片器具を開発．これにより平成20年度（第40回）東レ理科教育賞の文部科学大臣賞を受賞した．地質学関係では初の受賞である．その他，県内の先生方と共同で，地域に根ざした課題を地学実験に取り入れた実践集「岩手県の地学実験書」などを作成している．

このように杉山会員は全ての勤務地で地域の地質と係わり，それを地学の授業に生かしてきた．この地道な努力は大いに顕彰されるべきであり，日本地質学会功労賞に値する．

10．学会表彰（２件）

受賞者：山口県（代表者：山口県知事　二井関成）

表彰業績：阿武火山群の火山灰層の保存と観察施設建設

阿武火山群は，日本の活火山の中でも3つしかない独立単成火山のひとつである．2006年11月末，山口県萩市と阿武郡阿武町の境界付近の伊良尾山（比高約150m）の山麓を通る広域農道の工事現場の両側の法面に，阿武火山群・伊良尾火山から噴出した降下火山礫・火山灰層が露出した．露頭は幅200m，高さ50mの大規模なものである．この露頭は，伊良尾火山の約30～40万年前のViolent Strombolian Eruption（日本語訳はまだない）で形成された地層の一部であり，調査・研究の結果以下のような火山形成史が明らかになった．

1）マグマ水蒸気爆発で噴火開始．2）スコリア丘の形成と噴煙柱由来の火山灰・火山礫の堆積．3）スコリア丘へのマグマの貫入とスコリアラフトの形成．大量の溶岩流は溶岩台地を形成し，一部は当時の川に流れ込み15km下流まで達した．4）さらに火山礫・火山灰が堆積し，その中に溶岩流が数回流れ込んだ．5）溶岩台地上の別の場所に2つの小規模なスコリア丘を形成し，それぞれ溶岩を流出した．

このような地層の露出は，阿武火山群では初めてのものであり，特に，一見摺曲したように見える降下火山礫・火山灰層は見事なものであった．今後，このような地層は現れることがないと判断し，2006年12月初旬に山口県萩農林事務所に露頭の保存を要請した．しかし，道路の安全性から保存は不可能であるとの回答であった．その後も，学術的な価値を訴え，保存の要請を続けた．その結果，2008年11月27日，山口県は地層の一部保存を決定し，２段目の法面に長さ約80m・高さ３mの屋根付の遊歩道と解説板を設置することにした．また，コンクリートブロックで覆われる１段目の法面の地層は，両側に各１ヶ所の横２m・縦６mの窓を開け地層の観察ができるようにした．さらに，剥ぎ取り標本を作製し，それらは山口大学理学部，県立山口博物館，萩博物館，萩市と阿武町の公共施設に計８枚展示されている．さらに，見学者のための駐車場と案内板が設置される．また，大堂に産出した火山弾を山口県から無償で譲渡していただき大学や博物館などの教材として利用している．

今回，山口県の英断によって，道路の設計が変更され一部ではあるが学術的に重要な地層が駐車場と屋根付きの見学施設として残されることになった．このことは貴重な地層の保存，地質学・火山学の発展や普及に多いに寄与するものと思われる．山口県のこのような貢献は「日本地質学会表彰」にふさわしいものと思い推薦する次第である．

受賞者：地球システム・地球進化ニューイヤースクール（NYS）事務局（大坪誠・坂本竜彦・岡崎裕典・ほか）

表彰業績：地球科学系の若手研究者の継続的育成活動

「地球システム・地球進化ニューイヤースクール（以下NYSと略記）」は，地球惑星科学の未来を担う学部学生・大学院生・若手研究者の研究意識の向上（ボトムアップ）と交流促進を目的に，毎年１月に院生・ポスドク・若手研究者らが自主的に開催し，全国から毎年100名を超える参加者を集め，2001年から継続して実施されている大規模な研究・勉強集会である．NYSは，地球惑星科学全般の幅広い分野をテーマに，その分野の第一線の著名な専門家を招待しての講演，参加者間の討議・意見交換，そして若手研究者の研究発表などを活発に行い，若手が自ら切磋琢磨する場を提供している．近年では研究者のみならず，ライターやサイエンスコーディネーターといったアウトリーチ関連の方々や政府のガスハイドレート開発マネージャーといった旧来のサイエンティストに当てはまらない関係者を積極的に講演に招待し，ポスドクの新たな進路開拓も視野に，若手自らの視野を広げる努力を続けている．

NYSは後援者を募り，テキスト・ポスターの印刷費や会場費程度の支援を受けつつも，特定の大学や研究機関からは独立して運営され，若手のボランティアによって成り立っている．また参加者の中から次の運営者を育て，継続的な運営が成されている．一連の活動を通じて，多くの若者に広い視野とリーダーシップが培かわれ，事務局からは優れた研究者・技術者が次々に誕生している．

この会の活動を表彰し，地質学の未来を担う若者の自発的な成長を促すことは，日本地質学会の設立目的にも合致する．NYSの活動は，全国かつ多方面の地球科学系の若手育成に継続的に貢献しており，地質学会表彰に値する．

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

日本地質学会編集 日本地方地質誌 <全8巻，函入上製本>

『日本地方地質誌』刊行委員会　刊行委員長：加藤碵一　副刊行委員長：高橋正樹

第5回配本　8．九州・沖縄地方　650頁，口絵8頁

（7月下旬刊行）

編集委員長：佐野弘好　　副編集委員長：西山忠男・長谷義隆

定価27,300円（税込）を会員特別割引価格 24,000円（税・送料込）

日本地質学会会員の皆様に日本地方地質誌を特別割引価格で販売をいたします．
お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会「日本地方地質誌」刊行委員会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店

［問い合せ先］〒162-8707　東京都新宿区新小川町6-29
株式会社 朝倉書店　　編集部：千葉　　Tel. 03-3260-1967
［お申し込み］本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

会　員　特　価　申　込　み　書

Fax No.03-3268-1376　朝倉書店編集部　千葉 行

日本地方地質誌	8．九州・沖縄地方	会員特価24,000円（定価27,300円）	冊
日本地方地質誌	3．関東地方	会員特価24,000円（定価27,300円）	冊
日本地方地質誌	4．中部地方	会員特価22,500円（定価26,250円）	冊
日本地方地質誌	5．近畿地方	会員特価20,500円（定価23,100円）	冊
日本地方地質誌	6．中国地方	会員特価22,500円（定価26,250円）	冊

［第6回配本］　1．北海道地方　（2010年11月刊行予定）
以下続刊：続刊も刊行次第順次ご案内いたします．　2．東北地方　7．四国地方

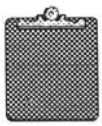
お 名 前：

ご送付先：〒　　-

ご 所 属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第19回 日本水環境学会市民セミナー

「食糧と水―私たちが生きていくために―」
期日　2010年8月27日（金）10：00－15：50
場所　東京会場：地球環境カレッジホール（いであ㈱ 内）（東京都世田谷区駒沢）
大阪会場：いであ㈱大阪支社ホール（大阪市住之江区南港北）
プログラム
10：00－11：00　水田と水
茨城大学 地域環境科学科
黒田久雄（東京会場）
11：10－12：10　畑作と地下水
岡山大学大学院環境学研究科
前田　守弘（大阪会場）
13：30－14：30　水産と水
㈱水産総合研究センター
中央水産研究所
佐野元彦（東京会場）
14：40－15：40　畜産と水
㈶畜産環境整備機構
羽賀清典（東京会場）
※講師の都合等で一部変更となる場合があります．

参加費　一般：3,000円，大学生：1,000円，高校生以下無料（テキスト代含む）
定　員　300名（各会場150名）（先着順）
申込方法　FAX，E-mail，またはハガキに（1）参加者氏名（フリガナ）　（2）会員・非会員の別　（3）会員の場合は会員番号　（4）希望受講会場　（5）連絡先（所属団体名，住所および電話・FAX番号）をご記入の上，下記宛お申し込み下さい．

申し込み・問い合わせ先
㈳日本水環境学会 セミナー係
〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7
グリーンプラザ深川常盤201号
Tel. 03-3632-5351　Fax. 03-3632-5352
E-mail：yamamoto@jswe.or.jp
http://www.jswe.or.jp/

地球システム・地球進化 秋の学校 in 関西

この秋の学校は，これまで年始に首都圏で開催されてきた「地球システム・地球進化ニューイヤースクール」のスピンオフといえる企画で，今回が初めての開催となります．これまでのニューイヤースクールでは，地球・惑星科学に魅力を感じ，研究に取り組んでいる学生・研究者が，集中的に広範な講義を受け，「地球（惑星）科学研究の今後のあり方」に意識共有を持てることを目指しています．さらに，「参加者一人一人が意見・考えを伝えることができる機会を設け，参加者間で意見・考えを共有し，新たな考えを模索することができる」ことをコンセプトとしています．また，参加者が普段会えない様々な世代・分野・立場の人々と交流することにより，視野を拡げ将来について考えたり，新たな研究を始めたりする「きっかけ」作りの場を提供します．

今回の秋の学校では，これまで首都圏で行われてきたニューイヤースクールの目的を踏まえたスクールを関西で行うことで，地方（特に西日本）での地球惑星科学研究の活性化と，学生・若手研究者の交流を目指しています．

テーマ：「融合から発展する地球惑星科学」
地球惑星科学内外での分野の融合によって新たに切り開かれる研究について，第一線の研究者の方々に講演をしていただきます．また，講義に関する内容について，受講者同士のグループディスカッションができる場を設ける予定です．

日程：2010年10月 9 日（土）
場所：大阪大学豊中キャンパス理学部D501教室
主催：地球システム・地球進化 秋の学校 in 関西　実行委員会
共催：地球システム・地球進化 ニューイヤースクール（NYS）事務局
大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
規模：80名程度
対象：学部生・大学院生・ポスドクを主たる対象とするが、分野、年齢、立場を問わず（講義のレベルは博士１年～修士２年を想定）．
予定講師（敬称略、タイトルは変更の可能性あり）：
■通常レクチャー
藪田ひかる 先生（大阪大学 理学研究科）
「有機物の宇宙化学」
平田岳史 先生（京都大学 理学研究科）
「同位体地球化学の新展開：超微量元素による地球科学と医学生物学の融合」
■EX.レクチャー
寒川旭 先生（産業技術総合研究所 関西センター）「遺跡が語る地震の過去と未来」
戸田山和久 先生（名古屋大学 情報科学研究科）「地球惑星科学の科学哲学をつくる」
参加費：一律1000円を予定（懇親会費別）．高校生以下は無料．

受付：2nd circular（７月下旬頃を予定）にて詳細を配信．
情報は，ニューイヤースクールのホームページ（http://quartz.ess.sci.osaka-u.ac.jp/~earth21/school/gakkou/gakkou.html）にも随時公開されます．

お問い合わせ：
地球システム・地球進化　秋の学校 in 関西実行委員会（代表　産総研・山口直文）
E-mail：earth21-autumnws-kannsai@m.aist.go.jp
＊Subject：あなたのお名前・ご質問とし，電子メールでお問い合わせください．
＊大学・高校の団体での参加を検討される場合は，あらかじめお問い合わせください．

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）教員公募

募集人員：准教授１名
所　　属：学術資源研究公開センター（総合学術博物館）
職務内容：学術資源研究公開センターおよびその業務組織である総合学術博物館の運営および業務を中心となって担い，東北大学が所蔵する学術資料標本全般の保管・活用および，それらに関する社会貢献活動を積極的に行うとともに，地質学・古生物学分野の研究教育に従事する．また，理学研究科地学専攻の自然史科学講座（協力講座）の教員として，学部・大学院の研究・教育にあたる．さらに，地質学・古生物学に関する野外調査を行い，学術および研究資料を採取するとともに，野外調査に関する実習・教育指導も行なう．
分野等：地質学・古生物学・層位学分野．特に，野外調査を活用した分野の研究に従事する研究者が望ましい．
担当科目：理学研究科・理学部，全学教育における地質学，古生物学，地史学，博物館学，環境科学関係の講義・演習・実習等．
応募資格：博士の学位を有する者．
着任予定：2010年11月以降のできる限り早い時期．
提出書類：
1．履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）
2．研究業績リスト（1）論文（査読の有無を記すこと）（2）著書（3）その他
3．主要論文・著書等５編の別刷り各１部（コピー可）
4．これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）

5．競争的資金の獲得状況
6．着任後の教育・研究に関する抱負（2000字程度）
7．博物館等の運営に関連した実績，着任後の抱負（2000字程度）
8．照会可能者２名の氏名と連絡先

応募締切：**2010年8月15日必着**

書類送付先：〒980-8578　仙台市青葉区荒巻字青葉6-3　東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）事務室 宛

応募書類送付に際しては，封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書きし，簡易書留郵便にすること．応募書類は原則返却いたしません．また，審査において面接を行う場合，交通費は応募者の負担とします．

（照会先）：東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）
人事選考委員会 委員長 西 弘嗣
電話：022-795-6620　Fax: 022-795-6634
e-mail：hnishi@m.tohoku.ac.jp
http://www.museum.tohoku.ac.jp/about/index.htm

神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻教員公募

1．職名・募集人員：教授１名
2．所属：地球惑星科学専攻
3．専門分野：広い意味での岩石学・地球物質科学
4．職務内容：理学研究科地球惑星科学専攻における教育研究ならびに理学部地球惑星科学科における教育に従事し，全学共通教育を担当していただきます．特に野外実習や，岩石学の講義ができる方が望ましい．
5．応募条件：博士の学位取得者
6．着任時期：平成22年12月1日以降のできるだけ早い時期
7．提出書類：
(1) 履歴書（e-mailアドレスを連絡先として明記のこと）(2) 研究業績目録（査読付原著論文とそれ以外に区別すること，下記 (7) の主要論文に○印を付けて下さい．）(3) 各種研究費獲得歴，受賞歴 (4) これまでの研究経過・業績の内容（2,000字程度）(5) 将来の研究構想および抱負（2,000字程度）(6) 応募者について意見が伺える方２名の氏名とe-mailアドレス (7) 主要論文（５編以内）の別刷またはコピー (8) 選考の過程でセミナーをお願いすることがあります．
8．応募締切：**平成22年８月31日（火）必着**
9．応募書類提出先：
〒657-8501　神戸市灘区六甲台町1番1号
神戸大学大学院理学研究科
－地球惑星科学専攻長　郡司　幸夫

応募書類は「地球惑星科学教授応募」と明記し簡易書留にするか，または宅配便で送付して下さい．また封書とは別に，上記書類は電子ファイル（PDF）として電子メールで (1) － (6) と (7) に分割してお送りください．電子メールのヘッダ（To, Subject）は
To : apply-10a@itpass.scitec.kobe-u.ac.jp
Subject : 地球惑星科学教授応募として下さい．
10．問い合わせ先：
郡司幸夫
（e-mail: fsci-pla-director@edu.kobe-u.ac.jp）

＊専攻ホームページ
http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/
＊応募書類は返却しません．選考終了後，個人情報は責任を持って破棄します．
＊神戸大学は，男女共同参画社会基本法の趣旨に則り，女性の方々の積極的な応募を歓迎します．

東邦大学理学部化学科教員公募

公募人員　講師または准教授1名
所　　属　理学部化学科　地球・環境化学系
専門分野　地球化学・環境化学（分析化学を基盤とする）
なお，地球・環境化学系には，山口耕生准教授（地球化学教室），平山直紀教授・岡村 忍講師（分析化学教室）が在職している．
担当科目　学部および大学院の地球・環境化学関連科目の講義，演習，実験
資　　格　博士の学位を有する方
応募締切　**2010年９月21日（火）必着**
着任時期　2011年４月１日
提出書類　(1) 履歴書（写真付）(2) 研究業績リスト（学術論文（査読あり原著論文，査読なし原著論文，総説，著書，国際学会発表等に分類すること．受賞・外部資金取得状況を含む）(3) 主要論文の別刷（５編以内）(4) 現在までの研究・教育概要（A4版２－３枚程度）(5) 今後の研究・教育に関する抱負と計画（A4版１－２枚程度）(6) 本人に関する所見を求め得る方２名の所属・氏名と連絡先
提出先　〒274－8510千葉県船橋市三山2-2-1
東邦大学理学部化学科　森山広思
「地球・環境化学系教員応募書類」と朱書し簡易書留で郵送のこと
問合先　理学部化学科・学科主任　森山広思
電　話　047－472－1211
電子メール　kobo10@chem.sci.toho-u.ac.jp
備　考　応募書類は原則返却しない．返却希望の方は，返信用封筒に宛名を書き切手を貼付けて同封のこと．本学は男女共同参画を推進しており，女性研究者の積極的な応募を期待しています．若手研究者の応募を歓迎します．

東北大学大学院理学研究科地学専攻教員公募

募集人員　　教授１名
所属講座　　地学専攻、地圏進化学講座
募集分野　　地学専攻、地圏環境科学科（地圏進化学コース）における古生物学関連の研究と教育を中心となって推進し、地学専攻内や他専攻・他研究科等、学内外の研究者と協力しながら、国際的な場で積極的に活動し、グローバルCOE等の推進にご尽力頂ける方で、先端的な研究分野において博士課程大学院生を指導し、若手研究者を世界に送りだすことに注力頂ける方が望ましい．
担当科目　　理学研究科・理学部と全学における地圏環境科学科（地圏進化学コース）関係の講義・演習・室内実習・野外実習等
応募資格　　博士の学位を有する者
着任予定　　平成23年４月１日
提出書類　　１．履歴書（写真貼付、連絡先明記のこと）　２．研究業績リスト（1）論文（査読の有無を記すこと）（2）著書（3）その他　３．主要論文10編の別刷り各１部（コピー可）　４．在外研究歴･研究教育に関する受賞歴･外部資金獲得実績リスト　５．これまでの教育･学生指導･研究実績の概要（2000字程度）　６．着任後の教育･研究に関する抱負（2000字程度）　７．照会可能者２名の氏名と連絡先
応募締切日　　**平成22年９月末日　必着**
書類送付先　　〒980-8578　仙台市青葉区荒巻字青葉6-3　東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室　宛

応募書類送付に際しては、封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留郵便にすること．応募書類は原則返却致しません．また，審査において面接を行う場合，交通費は応募者の負担とします．

照会先　　東北大学大学院理学研究科地学専攻，専攻長　吉田武義
電話（兼Fax）022-795-7763
e-mail：tyoshida@mail.tains.tohoku.ac.jp
（URL : http://www.gcoe.es.tohoku.ac.jp/）

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行理事会までお申し込み下さい．

2010年度「朝日賞」候補者推薦依頼のお知らせ

朝日新聞文化財団より，2009年度「朝日賞」候補者推薦の依頼がありました．朝日新聞文化財団は，朝日新聞社が文化活動支援を公益的な立場から行うため，1992年に設立され，

朝日賞の受賞事業を継承しております．この賞は，1929年（昭和４年）に朝日新聞社が，創立50周年を記念して創設したもので，人文や自然科学など，我が国のさまざまな分野において，傑出した業績をあげ，文化・社会の発展，向上に多大な貢献をされた個人または団体に贈られています．

推薦書は８月31日（火）までに，所定様式送付となりますので，**推薦を希望される方は８月10日（火）までに，執行理事会宛にご連絡下さい．**

推薦票は下記URLからダウンロードできますが，パスワードが必要です．希望される方は学会事務局までお問い合わせ下さい．
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/suisen/

問い合わせ先：
朝日新聞社事業本部
メセナ・スポーツ部「朝日賞」事務局
〒104-8001　東京都中央区築地5-3-2
TEL（直通）03-5540-7453
FAX　03-3541-8999
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/

第14回尾瀬賞募集

目　的
「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより，この分野の学問的・学際的研究の伸展を図るとともに，環境保護に関する関心を高めることを目的とします．

賞の内容
(1) 賞の種類
選考の主たる対象は尾瀬賞です．将来性のある若手研究者には尾瀬奨励賞を授与することがあります．
(2) 候補者の対象・資格
・賞の対象は湿った土地に特有の植生と泥炭を有する湿原生態系（流域を含む），およびそれらの保全に関わる研究（人文社会系の研究を含む）とします．なお，塩性湿地の研究は対象に含まれません．なお，対象とする湿原は尾瀬ヶ原に限りません．
・応募者は上記の分野において優れた業績を上げ，今後の研究の深化が期待される個人またはグループとします．
・グループ研究による業績の場合は代表者による申請とします．
・グループ研究の代表者となる応募者は，単なるグループの組織・統括者ではなく，「応募研究テーマに関係する主要業績」の共著者として学術的貢献の顕著な人とし，１編以上の主著者であることとします．
・尾瀬奨励賞の対象者は個人応募のみとします．
・病気や出産・育児などで長期間（１年以上）にわたり研究活動が中断した期間がある場合はその期間を別紙（様式自由）に書いて，添付して下さい．
(3) 受賞
・尾瀬賞受賞者は本賞２名以内，奨励賞２名以内とします．
・本賞受賞者には１名（１グループ）につき賞状および賞金100万円を贈呈します．
・奨励賞受賞者には１名につき賞状および賞金20万円を贈呈します．
・適任者がいない場合には受賞者なしとすることもあります．

募集締切：**2010年８月31日（火）（消印有効）**

応募用紙の送付先および問い合わせ先
財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係
〒371-8570　群馬県前橋市大手町一丁目1-1
群馬県庁内
電話：027-220-4431, FAX：027-220-4421
Eメール：info@oze-fnd.or.jp
http://www.oze-fnd.or.jp/main/frmain.html

第32回（平成22年）沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄研究奨励賞は，沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し，育成することを目的として，昭和54年に創設されました．

本奨励賞は，沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学，人文科学，社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ）の中から，受賞者３名以内を選考し，奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです．

応募資格は，学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下（平成22年７月15日現在）の方で，出身地及び国籍は問いません．

応募資格：学協会・研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下の者で，平成22年7月15日現在で50歳以下の者

応募方法：(1)「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」(2) 研究成果物（論文３点以内，著書がある場合は１冊），(3) 研究成果物の要旨（A４判横書き各1,000字以内），(4) 研究業績リスト（著書，論文等30点以内．A４横書き）

応募書類の提出先：
〒112-0004　東京都文京区後楽1-2-9
エー・ゼットキュウブビル５Ｆ
財団法人沖縄協会　沖縄研究奨励賞係

応募締切：９月30日（当日消印まで有効）
（学会締切９/10（金））

お問い合わせ：
財団法人沖縄協会　沖縄研究奨励賞
担当・山岸
mail:okinawakyoukai@nifty.com
TEL：03-5803-2341　FAX：03-5803-2581
http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/index.htm

平成22年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

１．東レ科学技術賞
候補者の対象　　貴学協会が関与する分野で，下記に該当するもの/学術上の業績が顕著なもの/学術上重要な発見をしたもの/重要な発明をして，その効果が大きいもの/技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの

科学技術賞　　２件前後．１件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円
候補者推薦件数　　１学協会から２件以内
推薦締切期日　　**平成22年10月８日（金）弊会必着（学会締切９月10日必着）**

２．東レ科学技術研究助成
候補者の対象　　学協会が関与する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的基礎研究に従事しており，今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）
研究助成金　　総額１億３千万円．１件３千万円程度まで10件程．
候補者推薦件数　　１学協会から２件以内
推薦締切期日　　**平成22年10月８日（金）弊会必着（学会締切９月10日必着）**

＊各推薦書用紙は，ホームページからもダウンロードできます．
http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

問い合わせ先
財団法人東レ科学振興会
〒279-8555　千葉県浦安市美浜1-8-1
TEL（047）350-6103
FAX（047）350-6082
E-mail torayzaidan@tgnts.toray.co.jp

CALENDAR

2010.7〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2010年

7月　July

◯「青少年のための科学の祭典」2010全国大会
日本地質学会　後援
7月31日（土）〜8月1日（日）
場所：科学技術館（東京都千代田区北の丸公園）
http://www.kagakunosaiten.jp/index.php

8月　August

◯堆積学スクール2010「未固結変形構造と脱水構造」
8月9日（月）〜12日（木）
会場：民宿さかや（大多喜町葛藤143番地）
http://sediment.jp

◯第12回国際熱年代学会議（Thermo 2010）
8月16日（月）〜20日（金）
会場：スコットランド・グラスゴー大学
http://www.ges.gla.ac.uk/Thermo2010

◯日本ジオパーク糸魚川大会
8月22日（日）〜23日（月）
会場：糸魚川市民会館（新潟県糸魚川市一ノ宮）
日本地質学会　後援
http://geo-itoigawa.com/taikai/index.html

★韓日地質学会室戸合同大会
8月23日（月）〜25日（水）
会場：国立室戸青少年自然の家
主催：日本地質学会
http://struct.geosociety.jp/koreajapangs2010/

◯第19回日本水環境学会市民セミナー「食糧と水―私たちが生きていくために―」
8月27日（金）
場所　東京会場：地球環境カレッジホール
http://www.jswe.or.jp/

9月　September

★北海道支部企画野外巡検
夕張市・白金川流域の地質―砂金・化石の産状と白亜紀海洋無酸素事変層準の観察―
9月4日（土）・5日（日）
申込締切：8月20日（金）
定員：30名
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

◯第54回 粘土科学討論会
9月6日（月）〜8日（水）
会場：名古屋大学 IB 電子情報館
日本地質学会　共催
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

◯2010年度日本地球化学会年会
9月7日（火）〜9日（木）
会場：立正大学熊谷校舎（埼玉県熊谷市）
日本地質学会　共催
http://www.geochem.jp/index.html

◯日本温泉科学会第63回大会
9月13日（月）〜16日（木）
会場：野沢温泉アリーナ国際会議場
問い合わせ：info@nozawa.jp

★日本地質学会第117年学術大会
9月18日（土）〜20日（月・祝）
会場：富山大学ほか
http://www.geosociety.jp

◯日本鉱物科学会2010年年会・総会
9月23日（木・祝）〜25日（土）
会場：島根大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/

10月　October

◯地球システム・地球進化 秋の学校 in 関西
10月9日（土）
場所：大阪大学豊中キャンパス理学部D501教室
http://quartz.ess.sci.osaka-u.ac.jp/~earth21/school/gakkou/gakkou.html

◯2010 土壌・地下水環境展
10月13日（水）〜15日（金）
会場：東京ビッグサイト（東京国際展示場）
日本地質学会　協賛
http://www.nikkan.co.jp/eve/dojyo/index.html

◯Techno-Ocean 2010
10月14日（木）〜16日（土）
会場：神戸国際展示場（神戸・ポートアイランド）
日本地質学会　協賛
http://www.tecno-ocean2010.com

◯日本応用地質学会平成22年度研究発表会
10月21日（木）〜22日（金）
会場：島根県民会館松江市
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

11月　November

★第4回関東支部研究発表会：日本地質学会関東支部2010年秋季シンポジウム
11月20日（土）〜21日（日）
テーマ：関東平野の地下地質構造 と形成史
場所：日本大学文理学部3号館5階
http://kanto.geosociety.jp/

12月　December

◯第26回ゼオライト研究発表会
日本地質学会　協賛
12月2日（木）〜3日（金）
会場：タワーホール船堀
http://www.jaz-online.org/index.html

科学研究費補助金 「系・分野・分化・細目表」に関する意見募集

日本学術振興会学術システム研究センター
専門研究員　花輪公雄・永原裕子

日本学術振興会では，文部科学省科学技術・学術審議会の依頼を受け，平成25年度公募から適用する「系・分野・分化・細目表」の改正に向け検討を行っています．「系・分野・分科・細目表」は，平成5年度より5年ごとに改訂がおこなわれ，25年度は10年に一度の大改訂の年度にあたります．日本学術振興会学術システム研究センターでは，関係コミュニティーの意見を伺い，それをもとに検討を進めたいと考えております．

地球惑星科学関連では，とりわけ，総合・新領域系複合新領域分科社会・安全システム科学分科，総合・新領域系複合新領域分科社会・環境学分科，総合・新領域系総合領域分科地理学分科などとの関連，地学・地理学教育に関しては総合・新領域系総合領域分科科学教育・教育工学分科科学教育細目などのありかたにつき，みなさまのご意見が重要です．

意見提出期限：2010年8月27日（金）

検討内容・意見提出方法など詳しくは，http://www.geosociety.jp/news/n65.html

5月10日は 地質の日

2010年の「地質の日（5/10）」に関連して開催された学会の催しをご紹介します．

★本部イベント企画

写真家白尾元理講演会「地球史46億年を撮る」

去る５月８日，東京大学小柴ホールにて，白尾元理さん講演会「地球史46億年を撮る」を開催した．また「ジオ写真展」を同時開催し，白尾さん撮影の作品十数点と，白尾さんが審査委員長の「惑星地球フォトコンテスト」の入賞作品を展示した．

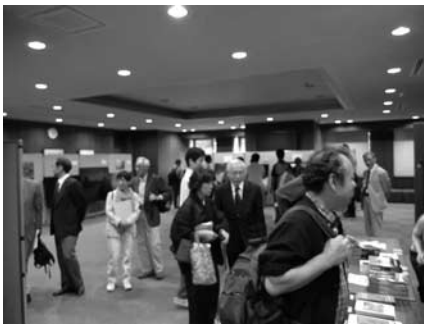
白尾さんの講演は，現在作成中の「地球の46億年」（岩波書店）の内容にそって，太古から現在にかけての32枚の写真を使って進められた．最初は地球創成期を想像させる月の写真からはじまり，「かぐや」によって撮影された月のクレーターが直径1000kmと，チッチュルーブクレーター（80km）にくらべて非常に大きいことが紹介されると，聴衆の関心がぐっと増した．そのあと，オーストラリアピルバラの38億年前のチャート，27億年前のストロマトライトや縞状鉄鉱床，同じく27億年前のカナダのコマチアイト，そして７億年前のスノーボールアースの時期の氷河性堆積物（ドロップストーン）へと話は進んでいく．ここでアイスランドのグリムスヴォトン火山のカルデラの氷河が2004年の溶岩で溶ける様子が示され，スノーボールアースの溶けるイメージとして使われていた．そしてニューファンドランドのエディアカラ動物群が紹介され，火山灰で覆われて保存されたことが説明された．

後半は，顕生代の話に移り，古生代はカナダのバージェス頁岩とバージェス動物群．中生代ジュラ紀はフランスの大きなアンモナイトや，ドイツのゾルムホーヘンの始祖鳥化石の群れ，白亜紀はイギリスドーバー海峡のチョーク，オマーンの枕状溶岩と岩脈群が紹介された．新生代は，アフリカ大陸が衝突して地中海が砂漠化してできた石膏の地層などが紹介され，最後に1992年２月の台湾中部大地震で形成された７mの崖（現在は滝になっている）で，地球の変動を実感させるかたちで講演は終わった．

講演は約1時間だったが，対象が明瞭に映し出された美しい写真に感動するとともに，短時間にして地球規模のジオトリップを楽しんだような，そんな満足感にひたることができた．

参加者は約90名で，遠くは山口県から駆けつけた方もあった．ロビーで写真展を楽しむこともでき，参加者に大変喜ばれた，また地質を素材に楽しめる企画を考えていきたいと思う．

（担当理事　藤林紀枝）



★北海道支部：「地質の日」・「国際博物館の日」記念企画展示

「わが街の文化遺産 ―札幌軟石　歩いた！ 探した！ 見つけた！」

北海道大学総合博物館１F「知の統合」コーナー
2010年４月27日（火）～５月30日（日）
主催団体：札幌建築鑑賞会，札幌軟石文化を語る会，一般社団法人日本地質学会北海道支部，（地独）北海道立総合研究機構地質研究所，北海道大学総合博物館

2008年に第１回「地質の日」記念行事として，北海道大学総合博物館企画展示「ライマンと北海道の地質」を実施した．2009年は，北海道大学総合博物館企画展示「支笏火山と私たちのくらし」として４月～５月に実施した．引き続き，（財）自然公園財団支笏湖支部の御協力で環境省支笏湖ビジターセンターにおいて支笏洞爺国立公園60周年記念行事として，サテライト展示を行なった．内容は，約４万年前に活動した我が国で最大級の巨大火山噴火であった支笏火山の生い立ちや火山災害の紹介を主体にしたものである．

今回は，2009年テーマを引き継ぎ，支笏火砕流（溶結凝灰岩）に由来する札幌軟石に焦点を当てた．札幌軟石は明治初期から建築素材としてさまざまに利用され，札幌の重厚で風格のある街づくりに貢献した．軟石建物は往年よりも少なくなったとはいえ，今も街なかにその独特な姿を見つけることができる「わが街の文化遺産」である．展示では，支笏火砕流と札幌軟石の成り立ち，札幌軟石の採掘や運搬の歴史，軟石による建物や街づくり，札幌の軟石建築文化を支えた石工さんの高度な技術など今に残る産業遺産を紹介した．また，1,700件を超える軟石物件を確認した市民グループの街中フィールドワークの成果，珍しい軟石造形品なども展示した．

サテライト展示は，６月３日～30日の約一ヵ月間，（財）自然公園財団支笏湖支部の御協力で環境省支笏湖ビジターセンターにおいて行なった．

関連行事として，５月１日（土）に

写真左（札幌軟石展　会場風景）北大総合博物館の展示会場・写真右（札幌軟石展　ミニツアー）ミニツアーの見学状況（札幌軟石造りの旧石山郵便局）

ワークショップ「札幌軟石クラフトに挑戦！」，講演会「札幌軟石 いま・昔」を開催した．ワークショップでは，親子連れなど約30名が軟石の加工品作りに挑戦．講演会では，「札幌軟石は支笏火山の贈り物」(若松幹男氏：北海道地質調査業協会)，「札幌の軟石文化」(岩本好正氏：札幌軟石文化を語る会・地蔵守氏：石工の会)，「歩いた！探した！見つけた！札幌軟石」(中村祐子氏：札幌建築鑑賞会) の３件の講演とパネルディスカッションを行なった．椅子が足りなくなる80名ほどの参加者があり，質問も時間をオーバーする熱のこもったもので，市民の札幌軟石に対する関心の高さがうかがえた．

５月８日（土）には貸切バスにより，南区石山の藻南公園（明治～昭和の採掘現場）・現在の軟石採掘現場・石山市街の軟石建物，支笏火砕流堆積物を削り込んで作られた恵庭渓谷などの見学により，採掘・建材・地質－地形露頭を辿るミニツアー「札幌軟石ウォッチング」を実施した．小雨まじりと三分咲きの桜も縮こまる寒さのなかであったが，約65名が盛りだくさんの内容を時間を気にしながら，熱心に見学した．採掘現場では，子供たちが軟石の切り出し体験をした．応募は100名を超えたが，初めての試みでもあり，多人数・複数バスでの案内は無理との判断で，お断りしたところである．

いずれのイベントも北海道新聞などの取材・報道があり，NHKでも放映されるなど，大きな反響があった．以上によって，市民の暮らしに関わる地質の紹介は，フィールドにおける観察にとどまらず，その生産現場や利用の仕方などを加えることによって，より市民的になることが分かった．ジオツアーの一形態として，さらに発展させることが要求される．

（宮坂省吾・在田一則）

★関東支部

地質の日関東支部の取り組み：地質技術伝承講習会

本取り組みは，地質の日関連イベントとして2008年度より始め，2010年度からは関東地質調査業協会と共催しベテラン技術者から地質技術を伝えるべく，第７回，第８回を実施したものである．

今年度からの特徴としては，これまでは日本を造り支えてきた大プロジェクトがテーマの中心であったが，これらのテーマに加え，土石流，地下水資源の利用と保全，自然由来の重金属汚染，地質毎のボーリング・孔内試験技術など，現在直面している様々な地質工学的課題についても取り上げるべく企画した．

以下に今年度第７回と第８回の講演会の概要を紹介するとともに来年度以降の展開についての思いを書いてみたいと思う．

■第７回　赤色立体地図による新しい地質調査技術

講師：千葉達朗氏
（アジア航測株式会社）
日程：2010年４月18日（日）
会場：北とぴあ（東京都北区）

当日は関東支部総会を行ったこともあり参加者80名におよび大変盛況であった．講演は，1）地質や自然災害を研究する上で，地形情報を広域且つ微細に取得する必要性，2）またこの膨大な地形情報を「二次元で立体視」するために演者が考案した「赤色立体地図」がどのようにして生まれたかについて，多くの美しい地形ポスターや，更に畳半畳にもおよぶ大きな赤色立体地形模型を展示し，講演および模型の前で自由討論を行った．

特に赤色立体地図が2002年に生まれた当初の問題点，1）谷が暗くなりすぎる，2）高度が読み取れない，3）水系が追跡しにくい，についてその後の幾重にも亘る改良によって解決した過程や，今後の展開について，会場では大変興味深い反響があった．

以下，演者からの講演に先立つコメントを引用する．

「地質調査において現在地の確認は最も大切な作業の一つである．しかし地形図の等高線は正しいとは限らない．航空写真では，樹木の下の地形は，正しく認識できてないことが多かったのである．近年の航空レーザ計測によって取得された１ｍメッシュの高解像度データでは，樹木の下の地形取得できたが，表現するすべがなかった．

演者は，2002年に赤色立体地図という地形データの可視化手法を発案し，以来，おもに火山の地形地質の現地調査で活用してきた．その後，データ作成の現場で検証用に使用されたり，大地形の表現にも利用されてきた．

本講演では，赤色立体地図を使用した，地質調査技術を解説するほか，大判高精度画像や，赤色立体地図の削りだし３Ｄ模型を持参する．触ることによる立体感と比較してほしい．」

■第８回　共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱

講師：中村裕昭氏
（株式会社地域環境研究所）
日程：2010年６月６日（日）
会場：北とぴあ（東京都北区）

第７回に引き続き今回も60名におよぶ盛会となった．講演は，1）これまで地下水利用だけで地下水を痛めてきた反省，2）この反省に立った新しい地下水保全と利用について「育水」を提唱されたものである．

その中で，「この水は地下水につき飲めません」との立て札を例に，「この水は地下水なので安心していっぱい飲めます」となるような地下水とのこれからのつき合い方は，1）地下水を使ったらきれいにして地下へ還す（還水），2）地下水を量･質の両面で育ててから使うであると説明され会場の共感を呼んだ．

以下，演者からの講演に先立つコメントを引用する．

「水に関する知見や環境が，昨今，国内外において大きく変化している．例えば，①地球温暖化問題を踏まえた各種水環境変化の懸念，②世界の水問題，③国連における越境地下水国際法典化の動き，④ウォーターフットプリントISO化，⑤バーチャルウォーター，⑥健全な水循環確保，⑦統合的水管理，⑧我が国における水循環基本法制定の動き，⑨ダムに頼らない治水・利水の模索，⑩少子高齢化かつ緊縮財政化で迎えた水インフラ更新，⑪地下水に関する私権から共有財産への移行の動き，⑫地中熱利用，等々が挙げられる．

水は人類および地球に生存する全ての生物が生存する上で欠かせない有限な資源であり環境要素であるとの認識に立って，水に関する上記環境変化への対策案として，共生型地下水利用へ向けての『育水』を提唱する．」

■来年度以降の展開についての思い

本講演会が盛況の中で8回を数える開催になった理由は，無料でCPD取得ができることもあるが，大規模プロジェクトでの取り組みや現在直面している問題に対しての高度な技術を講習する事に加えて，演者の方のこれまでの地質技術者として長い道のりでの生き方も参加者へ伝えることができたからと感じている．

今後も，講師の方の地質技術に対しての思いが伝わる講演会にしたいと思う．

伊藤谷生（支部長），**山本高司**（支部幹事長），
緒方信一（支部幹事）

★近畿支部

地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？ー大阪平野の地下水を可視化するー」

主　催：地学団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館
実施日：2010年5月9日（日）
会　場：大阪市立自然史博物館　講堂
講演者：益田晴恵氏（大阪市立大学大学院理学研究科教授）
参加者：163名

同講演会は，自然史博物館において毎年開催され，回数は27回を重ねる．2008度からは「地質の日」の事業の一環として開催しており，地学団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館の3団体の共催での開催となった．

近年，大阪の街中にも「天然温泉」の看板が目立つようになった．火山もなく，温泉とは無縁と思われる大阪でなぜ温泉があるのだろうか．そのような身近な話題をテーマに，大阪市立大学の益田晴恵氏を講師に迎え，地下水や温泉をテーマにご講演いただいた．会場には温泉好きの人たち（?）160名以上が集まり，みな熱心に益田氏の講演を聞かれていた．

講演は地球上の水循環の話からはじまった．水は循環する資源であるが，地球上の利用できる淡水は少ないこと，そしてその中で地下水は重要な位置づけにあることが最初に述べられた．続いて化学的風化作用が水質形成に重要であり，流下するうちに周囲の岩石などと反応し，どんどんと水質を変化させていくことが，具体的な研究データを使いながら説明された．このような基本的な水環境や水質の話の後，今回の講演会の本論である大阪平野の地下水についての話となった．大阪の地下水利用の現状，帯水層の分布，地下水の流動など，近年明らかとなった様々な大阪平野地下水の研究結果が示された．また，大阪平野は地温勾配が比較的高く，ある程度の深度の地下水だと温泉認定されるため，深度がかなり深いものを除いては水質的には通常の地下水と変わらないものが多いことが示された．また，最近の過剰な温泉の使用により，水質変化や地盤沈下など含めた問題が起こる可能性を指摘された．最後には揮発性有機化合物を例に，地下水汚染についての話があった．移動スピードが遅い地下水では一回汚染されるとその除去に時間がかかることが大阪平野のデータと共に示され，継続的な監視が必要であることを指摘された．そして，地下水は誰のものか，公共的に管理しなければ今後様々な問題を引き起こす可能性があることを指摘され，講演をまとめられた．

講演後の質疑も活発で，地下水の有効利用や地震の際の液状化の問題など，生活に関わる質問が多く出された．地下水という身近なテーマと講師の益田氏のわかりやすい講演内容が，参加者に地下水や環境問題への大きな関心につながったのではないかと感じられた．地質学会のニュース誌，メルマガ等にも掲載していただいたおかげで，広島や福井などの遠方から参加された方もいた．博物館単独ではなく，学協会と連携しての講演会の有効性を感じられたひとつでもあった．

中条武司（大阪市立自然史博物館）

講演していただいだ益田氏と会場風景（ともに小倉徹也氏撮影）．

★西日本支部後援

「地質の日」企画：『身近に知る「くまもとの大地」』

去る5月9日，「地質の日」企画として，市民向けイベント『身近に知る「くまもとの大地」』が開催された．本企画は，日頃，地球科学の啓蒙普及に腐心し，またジオパーク運営に尽力している博物館の学芸員の方々，毎年自然災害の防止に努力している地質調査業の方々，あるいは理科離れ，特に縮小され続ける地学教育に憂慮している地学教育関係者の，多くの市民の方々に「地質を身近なものとして感じ，理解して欲しい」という願いを一つにして，昨年度に引き続き，熊本地区の地学関連機関が合同で開催したものである．開催にあたっては，長谷義隆天草市立御所浦白亜紀資料館長を実行委員長として『「地質の日」くまもと実行委員会』を設立し，日本堆積学会，熊本大学，天草市立御所

写真（左）イベント会場．（右）プロバクトロサウルスの全身骨格（複製）．化石エリアでは，県内外各地で採取された化石が多数展示された（天草市立御所浦白亜紀資料館・御船町恐竜博物館・熊本市立熊本博物館）

「恐竜時代の御船の七不思議」のクイズ大会（御船町恐竜博物館）．子供たちが真剣にクイズに参加．

浦白亜紀資料館，御船町恐竜博物館，熊本市立熊本博物館，（財）阿蘇火山博物館，熊本県企画振興部文化企画課博物館プロジェクト，熊本県地質調査業協会，阿蘇ジオパーク推進協議会，天草ジオパーク構想推進協議会が共催して実施された．

イベントは，熊本市の繁華街のほぼ中央，通町筋にある「びぷれす広場」で催された．会場は，展示，体験，情報・物販の３つのコーナーに分けられ，展示コーナーでは，阿蘇火山・化石・熊本の地質・自然災害と防災の４つを柱に展示がなされた．化石エリアでは，プロバクトロサウルスの全身骨格を中心に，アンモナイト・イノセラムス・哺乳類など，多くの貴重な化石が展示された．また御船町恐竜博物館の展示では，「恐竜時代の御船の七不思議」と題するクイズが行われ，正解者には恐竜グッズが賞品として渡された．阿蘇火山エリアでは，阿蘇火口の実況中継や噴火ビデオの映写，また火山灰の実体鏡観察，阿蘇黄土の形成実験もなされた．熊本の地質エリアでは，熊本の地下水の帯水層である砥川溶岩や白岳砂岩層の風化断面のボーリングコアを中心に，社会を支える地質調査業の仕事の内容について紹介がなされた．一部のコアは無料配布され，文鎮などに加工されたコア試料も配られた．さらに自然災害と防災エリアでは，地すべり災害を中心にパネルが展示され，また電気探査の簡単な実験もなされた．一方，体験コーナーでは，フズリナの研磨試料づくり，アンモナイトのレプリカ作成，カルデラの形成実験，恐竜の折り紙やぬりえ教室などが行われ，情報・物販コーナーでは，各博物館の案内の配布やオリジナルグッズの販売がなされた．また昨年度，日本ジオパークに認定された阿蘇ジオパーク・天草御所浦ジオパークの紹介コーナーも設けられた．

当日は好天に恵まれ，開場時間中（10〜16時），来場者は途絶えることがなく，その数は昨年度を上回り500名以上に上った．巨大な恐竜を見上げる人や熊本の地質について詳しく質問される方など，多くの方々に「くまもとの大地」について興味を持っていただけたようである．また体験コーナーでは，小さな子供たちが，目を輝かせながらレプリカや研磨試料づくりに熱中する姿が見られた．

企画・準備・運営にあたっては，実行委員，博物館ボランティア，熊本県地質調査業協会の会員の方々，ならびに熊本大学学生諸氏に献身的に動いていただき，無事，開催することができた．来年度以降も開催の予定である．なお開催にあたって，日本地質学会西日本支部，NPO法人熊本自然災害研究会，熊本県地質図編纂委員会，熊本地学会，くまもと地学教育研究会，熊本県高等学校教育研究会地学部会，阿蘇地域振興デザインセンター，御所浦アイランドツーリズム推進協議会，熊本日日新聞社，熊本放送にご後援いただいた．この場を借りて，深謝いたします．

（文責：「地質の日」熊本実行委員会　**松田博貴**）

★中部支部

体験型イベント「サイエンスフェスティバル」

５月16日に，体験型イベント「サイエンスフェスティバル」（会場：新潟大学理学部）を開催した．新潟大学理学部の２年生〜院生を中心に，教育学部，災害復興科学センター，NPOジオプロジェクト新潟，そして新潟県立自然科学館からのスタッフもあわせて，総勢54名がスタッフとなった．設けた体験コーナーは19コーナーである（本文参照）．

事前に大学のある新潟市西区に区報で広報し，また西区の19の小学校にチラシ（総計 8,645枚）を配布した．その結果，低学年の児童とその保護者を中心に，340名の参加者があった．

新潟大学では，「地質の日」が制定された初年度から，NPOジオプロジェクト新潟，新潟県立自然科学館と共催でこのような「地質の日」イベントを行っており，今回で３回目となった．ゼミを中心に，学生の自主的な活動として，準備や当日の展示・解説が行われるのが大きな特徴と言える．初年度（一昨年）は，本年度と同じく西区で開催して参加者428名，昨年度は大学から離れた区で開催して，参加者約250名の実績がある．今年度は開催時間が３時間で，昨年や一昨年（ともに５時間）より短かったが，それにもかかわらず340名もの参加あった．このことは，地質学を学ぶ我々の自信につながり，やりがいのあるイベントとなったといえる．

（中部支部　**小河原孝彦**，**今中里華子**，**足立佳子**）

体験コーナーの種類

1	鉱物展示	11	大陸パズル
2	パンニング	12	火山噴火実験
3	宝探し	13	岩石標本展示
4	レプリカ作成	14	標本作り
5	塗り絵	15	書籍販売
6	折り紙	16	立体地形図・パネル展示
7	断層岩展示	17	砂鉄取り
8	模型展示	18	エッキー
9	ポスター展示	19	五十嵐キャンパス石材観察ツアー
10	砂絵		

写真左から準備の様子．五十嵐キャンパス石材観察ツアー．スタッフ記念写真（理学部玄関前）

☆北海道支部

ご案内

野外巡検：夕張市・白金川流域の地質 ―砂金・化石の産状と白亜紀海洋無酸素事変層準の観察― のご案内

夕張市白金川流域には蛇紋岩類と白亜系蝦夷層群が広く露出しています．本巡検では，白金川でみられる蛇紋岩類由来（?）の砂金・白金の産状や，白亜紀中期のセノマニアン/チューロニアン境界期に発生した海洋無酸素事変の地層を観察します．巡検に先立ち，白亜紀の古環境や北海道の砂金・白金に関する講演も併せて行います．

日程：**2010年９月４日（土）～５日（日）**
９月４日（土）講演会：北海道大学理学部6号館2階6-204-2号室
15：00～15：45　「白亜紀の古環境」高嶋礼詩（北海道大学創成研究機構）
16：00～16：45　「砂白金からみた北海道」中川　充（産業技術総合研究所）
９月５日（日）巡検：夕張市白金川．案内者：高嶋礼詩・中川　充
８：30集合（北海道大学総合学術博物館前）大型バスにて現地へ移動．
18：00解散（北海道大学総合学術博物館前）

巡検の定員：30名
注意事項：弁当持参．天候と川の水量により中止する場合があります．見学地点までは片道１時間程度山道を歩きます．その際，何度か川を渡りますので，ひざ上程度水につかります．
装備：足元はフェルト地の沢足袋や釣り用シューズが便利です．その他，リュック，水筒，など登山用の装備が必要です．
参加費（巡検のみ参加費が必要です．バス代・保険込）：
正会員：4000円　一般：5000円　学生，院生：1500円

申込締切　８月20日（金）
申込先：北海道大学創成研究機構　高嶋礼詩
e-mail：<rtaka@cris.hokudai.ac.jp>　電話：011-706-9214
申込時に氏名・住所・所属・連絡先をご連絡下さい．

☆関東支部

お知らせ・ご案内

関東支部顕彰制度制定へ

日本地質学会関東支部では，地質学会が一般社団法人化する以前から多くの方々のご尽力により活発な活動が繰り広げられてきました．しかし，独自の顕彰制度がなかったため支部活動に多大な貢献をされた方々を顕彰することができなかったのです．

このたび日本地質学会の法人化を受け，関東支部幹事会は地質学会執行理事会とも協議の上，支部独自の顕彰制度を創設する方針を確認し，来年の支部総会に提案することとしました．この顕彰制度が動き出すまでにはなお１年余り時間がかかりますので，幹事会としましては，これまで特筆すべき貢献をされた方々への感謝状をまずお送りしたいと考え，感謝状審査委員会（委員長：中山俊雄前支部長）を設置しました．就きましては，感謝状をお送りすべきと思われる方について，推薦理由（書式自由）を添付の上，**８月20日（金）までに**下記へお送りくださいますようお願い致します．　（関東支部幹事会）

【郵便の場合】
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
日本地質学会事務局気付　関東支部
【emailの場合】
<kanto@geosociety.jp>
件名にかならず「関東支部感謝状候補」と明記してください．

シンポジウム「関東盆地の地下地質構造と形成史」

関東支部では，近年，関東地域で実施されてきた地下構造探査（大大特，首都プロ，国府津－松田プロなど）をはじめとする諸成果をベースに「関東盆地の地下地質構造と形成史」をテーマとしたシンポジウムを開催します．本シンポジウムの第１の特徴は，約500kmにおよぶ反射測線のプロファイルを100 km＝３mスケールでポスター会場に一挙に展示することによって，プロファイルを目の前にして関東地域の地下構造を議論できるところにあります．これは，広くゆったりとしたすばらしい会場を日本大学文理学部に提供頂いたことによってはじめて可能となったものです．第２の特徴は，本シンポジウムが日本第四紀学会との共催として行われることです．そして，さらにいくつかの学協会のご後援を頂く準備を進めています．このように，本シンポジウムは関東盆地の地下地質構造に関連する様々な学協会が連携し合う場となります．第3の特徴は，2011年開催の日本地質学会第118年大会（水戸大会）に向かう一つの重要な跳躍台であることです．本シンポジウムで提示される諸成果は，2011年の水戸大会においてさらに大きな議論へと発展するでしょう．

日時：**2010年11月20日（土）～21日（日）**の両日開催
場所：日本大学文理学部３号館５階
A．シンポジウム会場
１日目：10：00－12：00，15：00－17：00
「首都直下のプレート地殻構造と地震発生」
２日目：10：00－12：00，15：00－17：00
「関東平野の形成と進化の新しい見方」
B．ポスター会場（コアタイムは両日とも13：00－15：00）
・約500kmにおよぶ反射測線のプロファイル（100km＝３mスケール）を掲示．
・関東地域に関する一般講演（ポスターのみ）
《参加費》資料代をいただく予定です．詳しくは本ニュース誌に追って掲載します．

一般講演の募集
シンポジウムに併せて，一般講演（ポスターのみ）を募集します．関東地域の地質に関する幅広い発表をお待ちしております．
申込み方法：講演要旨とともに下記アドレスまでお申し込み下さい．申し込まれた方には折り返し確認のメールをお送りします．
講演要旨規定：word形式でA4サイズ２ページまで．余白は上下左右３cm．フォントはMS明朝．フォントサイズは和文タイトル14pt，著者名・英文タイトルおよび本文11pt．
講演要旨〆切：2010年９月10日（金）必着
講演要旨送信先：odawara@onken.odawara.kanagawa.jp
お問い合わせ先：神奈川県温泉地学研究所　小田原　啓
電話：0465-23-3588

ジオ・スクーリングネットに登録しよう！～富山大会でCPD単位が取得出来ます～

日本地質学会は，土質・地質技術者生涯学習協議会に加入し，地質技術者の継続的な専門教育（CPD）に携わっています．特に地質技術者の会員の方は，ジオ・スクーリングネット（GEO･Net）にご登録いただき，GEO･Netからも別途事前登録して富山大会にご参加頂ければ，CPD単位が取得できます．単位認定の基準は，下の表の通りです．大会への参加だけでなく，講演や見学旅行の参加についてもそれぞれ単位が取得出来ます．会期後WEBから受講証明（参加証明）もダウンロードできます．

またGEO･Netに掲載されている協議会加盟団体のイベント情報についても同様に検索・参加申込などが出来ます（参加の場合は，もちろんCPD単位が取得出来ます）．

積極的にご登録頂き，GEO･Netをご活用下さい．

また，各支部で主催する講演会や巡検等各種イベントについても，随時本サイトに掲載し，GEO･Net登録者にご参加いただけるようにしていきたいと思います．

ジオ・スクーリングネット（GEO･Net）
https://www.geo-schooling.jp/

（技術者継続教育委員会委員長　公文富士夫）

地質学会における技術者の継続教育単位の目安

2001/6/23作成

地質学会が認定する継続教育の種類と重み付けおよび認定単位の上限 CPDWF：重み付け，CPDH：継続教育単位（時間），H：受講時間数						地質学会の該当する行事		
教育形態の分類	番号	内容	CPDWF	CPDH	CPDH上限	本部	支部	備考
Ⅰ．研修会、講習	1	研修会、講習会、研究会、シンポジウム，野外見学会などへの参加	1	H	－	学術大会、シンポジウム、報告会、講習会野外見学会等	支部例会、研修会、講習会、研究会、シンポジウム野外見	休憩時間は除く
Ⅱ．論文等の発表	2	口頭発表（登録学協会主催）		10/編	－	学術大会、シンポジウム、報告会、講習会野外見学会等	支部例会、研修会、講習会、研究会、シンポジウム、野外見学会案内など	
	3a	口頭発表（その他の学術団体・研究会など）		5/編	－			
	3b	口頭発表，講演等（前記以外）		5/編	－			
	4	論文発表（査読つき各学協会会誌・国際誌）		40/編	－	地質学雑誌，Island Arc		執筆者数を考慮の上調整
	5	論文発表（一般誌・商業誌への論文、総説、報告等）		5/頁	10/編	ニュース誌記事・報告、シンポジウム・研究会などの論文・報告集など	支部発行の論文・報告集など	
Ⅲ．企業内研修及びOJT	6	研修プログラムに応じて	1	H	20/年			
Ⅳ．技術指導	7	大学、学協会、民間団体等の開催する研修会、講習会の講師等	3	3×H	10/件			
	8	社内研修会講師等	2	2×H	5/件			
Ⅴ．業務経験	9	成果を上げた業務等	適宜判断	－	40/2年間			
	9a	社長表彰など成果の認定があった業						
	9b	特記仕様書で技術士が指定された業						
	9c	企業が技術士に担当させる必要があると認定した業務						
	9d	企業の総括責任者として、重要な技術内容を含む複数の業務の品質・工程・安全・コスト管理						
	9e	公的な表彰を受けた業務						
	10	特許を取得した技術開発の管理技術者、主任技術者、照査技術者、担当技術者	－	40/件	－			
Ⅵ．その他	11	公的技術資格の取得	－		20/件			
	12	公的機関の議長、委員長等		3/出席回数	80/2年間	正副会長、理事会，委員会委員長、委員会事務局等	支部長、支部事務局、委員会委員長、委員会事務局等	
	13	公的機関の委員会委員、座長等		2/出席回数	40/2年間	理事会、各種委員会委員、ワーキンググループ委員など	各種支部委員会委員、ワーキンググループ委員など	
	14a	自己学習（読書：学術・技術雑誌、専門書籍，倫理・歴史・社会問題なども含む）			40/2年間			
	14b	自己学習（放送，視聴覚教材など）		1/冊				
	14c	自主的研究	0.5	0.5×H				
	15a	技術図書執筆（編者・監修）		40/冊	80/2年間	学会の企画する出版物の編集・監修	支部の企画する出版物の編集・監修など	
	15b	技術図書執筆（執筆者）		3/頁	80/2年間			
	16	研究開発・技術業務、国際機関への協力等	上記に照らして適宜判断		80/2年間			

土質・地質技術者の方必見！

ジオ・スクーリングネットを活用しよう

土質・地質技術者の生涯にわたる学習記録を
サポートするための支援システム

- ジオ・スクーリングネットは、土質・地質技術者生涯学習協議会が運用する土質・地質技術者のための生涯学習総合サイトです。
- 本サイトでは、地質学会のほか協議会加盟団体が主催する、研修会や講習会など技術者のための関連情報を提供しています。
- 利用者登録（無料）を行うと、どなたでも直接本ウエブサイトから研修会や講習会などへの参加申込みをすることができます。
- CPD単位を取得し、技術者継続教育（CPDH）の自己学習の記録が管理できます。
- 受講証明書やCPD記録証明が無料で発行できます。

※CPD (Continuing Professional Development:「継続教育」)

まずは登録！

各種証明書はWEBから無料発行できます
CPD記録簿/受講証明書/CPD記録証明書

ジオ・スクーリングネットの加盟団体は、現在も拡大中です。
加盟団体：日本地質学会・日本応用地質学会・日本地下水学会・日本地すべり学会・物理探査学会・日本情報地質学会・NPO日本地質汚染審査機構・産業技術総合研究所・関西地盤環境研究センター・全国地質調査業協会連合会・全地連10地区協会

http://www.geo-schooling.jp/

6 Weeks in Misasa：三朝国際インターンプログラム2009参加報告

竹原真美
九州大学大学院理学府修士１年

2009年夏（７月２日～８月11日），岡山大学地球物質科学研究センター（ISEI）にて，三朝国際インターンプログラム（MISIP）が開催された．このプログラムは，国際的な研究・教育の推進を目的に，国内外からの学部３・４年生ならびに修士課程学生を対象として毎年開催されている．私は選考された学生のうち唯一の日本人として，三朝の夏「６週間」を経験した．これはその体験記である．

研究活動

MISIP学生として選考された10人（加３，米２，仏２，韓１，中１，日１）の学生は３つの研究グループに分かれてそれぞれの課題に取り組んだ．私を含め10人中６人の学生は分析地球化学部門に属し，３人ずつ２チームに別れて三波川変成帯のエクロジャイト２試料のマルチ年代学（Sm-Nd，Rb-Sr，K-Ar，U-Pb年代）を行った．年代測定に関する分析法を経験するだけでなく，徹底した元素分析（主要12元素・微量28元素），安定同位体分析（酸素，ネオン，ヘリウム），顕微ラマン分光などを取り入れた地球化学的な岩石・鉱物記載を通し，変成岩の平衡非平衡やアイソクロンの解釈など，地質試料から年代情報を抽出するための基礎と考え方を学んだ．クリーンルームでの実験や機器分析は集中力を要するものが多く，そのため，結果が出たときは大きな達成感を感じた．

写真　マルチ年代学に従事したインターン学生（左奥から２人目が著者）

講義や実験説明，毎週金曜に行なわれる経過報告発表など，全てが英語で行なわれた．最初，それが非常に不安だったが，丁寧で根気強く説明してもらえたことと，周りのMISIP学生からの助けもあって，最後までついていくことができたと思う．期間中，W.G. Ernst先生，J.G. Liou先生，海老原充先生らゲストによる講義も行われた．

三朝生活

６週間，私たちMISIP学生は附属宿泊施設で共同生活を送る．私の場合，米国人とカナダ人と３人で１つの部屋をシェアし，各部屋設置のキッチンで，互いの出身国の料理を作るなど皆で自炊した．日々の買い出しは最寄りのスーパーまで自転車で片道約20分の道のりであったが，良い気分転換になった．日本食，とりわけ白玉団子など簡単な日本のお菓子はルームメイトには好評だった．

宿舎には天然ラドン温泉の岩風呂があり，学生の間でも大好評であり，私もほぼ毎日１回以上利用した．温泉街の足湯も人気であった．夕食のあとや買い物のついでに足湯を利用して日々の疲れを癒し，たわいの無い会話をして過ごした．

課外活動

私は，毎週３回，ISEI教職員・学生混合のランニングクラブの活動に参加した．約3.5キロコースのタイムトライアルを通して各自の記録を更新できるよう懸命に走った．週末にはサッカークラブがあり，初心者の私も何度か参加させてもらった．普段，研究室にこもりきっていて，あまり外で運動しない生活をしていたが，三朝では皆で体を動かす機会があった．このような運動は良い気分転換になるうえ，研究活動への集中力も増すので良いと思った．スポーツを通じて学生同士や教職員らと交流を深められたとも思う．

クラブ活動の他，ISEIメンバー有志で中国山地最高峰の大山登山を行った．大山は初心者向けの山とも言われているが，険しい登山道に疲労困憊であった．しかしその分，達成感は非常に大きかった．天気はあまり良くはなかったが，研究や三朝生活，西南日本の地質などのネタで話しを弾ませながら山を登り，幸い，山頂では霧が晴れてすばらしい景色を楽しむことができた．

MISIP期間中に開かれた3回のパーティーは，どれも多国籍料理でバラエティに富んでいた．特に，屋外パーティーでは本格的なバーベキュや流しそうめんを楽しむことができた．三朝町の夏祭り「キュリー祭」にも参加した．私たちインターン学生は皆浴衣や法被姿でISEIグループとして盆踊りコンテストに参加し，３位入賞を果たした．学生の中には祭後も，たびたび盆踊りの音楽を口ずさんだり，踊ったりする人もいて，盆踊りという日本文化を気にいってくれたようでうれしく感じた．

まとめ

海外に一度も行ったことのない私にとって，ISEIが初めて行った外国のようなものだった．そのため６週間の三朝生活は驚きの連続だった．文化や感覚の違いに驚くこともあれば，住む国が違っても共感できることがあって驚いたりもした．外国の同年代の研究者たちと過ごしてみて特に思ったことは，彼らは何事に対しても積極的に挑戦する姿勢であるということだ．研究活動に対してはもちろん，それ以外の場面でも，自分から行動を起こし，少しでも多くのことを体験し，吸収していこうとする姿勢が感じられた．１つの分野に集中することも大切だが，地球惑星科学を志す以上，彼らのように幅広い分野に興味を持ち，挑戦することも重要になってくると思う．こういった姿勢は私にはまだ不足していると思うので，見習いたいと思った．他にも議論や発表の論理的な話の組み立て方や，研究活動に対するプライドと責任など，私が学ばないといけない点は多く，自分を見つめ直すいい機会となった．そしてなによりも，彼らのようなすばらしい友人をつくることができたこともMISIPに参加して得た大きな財産の１つである．

三朝での６週間は，内容が盛りだくさんであっという間に過ぎてしまった．楽しかったことも，うまくいかずに苦労したことも，全てがいい経験になったと思うし，研究者を志す１人としてのこの経験を活かしていきたい．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の３名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）
k1799462@kadai.jp　中谷大輔（鹿児島大）
miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）

意見・提言

小惑星探査機「はやぶさ」の帰還に関して声明

2010年 6 月15日

小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワでの探査を終えて地球に帰還し，試料回収カプセルが無事回収された快挙に，日本地質学会から祝意を表します．「はやぶさ」が，小惑星イトカワの構造や表面状態について多くの興味深い知見をもたらし，様々な技術的困難を乗り越えて地球に帰還したことは，関係者の粘り強い心血を注いだ努力の賜物です．今回の探査に携わられた多くの関係者の皆さまの労をたたえます．

地球上の変動やこれまでの変遷過程を理解する上で，直接的なサンプルが果たしてきた役割は大きなものがあります．地質学の発展はまさにそうした直接的なサンプルやフィールドでの観察によって支えられてきました．月から得られた岩石試料が，月のみならず，地球の生成・発展の解明にとっても大きな役割を果たしたことは，よく知られています．

今後も始原天体などへのサンプルリターン探査がおこなわれ，地球・惑星・生命の起源と進化に関する解明が進むことを期待しますとともに，日本地質学会としてもそうした先端的・学際的な研究の発展のために力を尽くす所存です．

一般社団法人日本地質学会　会長　宮下純夫
（2010年6月15日学会ホームページ掲載）

表紙紹介

万丈窟（マンジャングル）（韓国，済州島）

写真・解説：**白尾元理**

韓国南部にある済州島は，東西70km・南北30kmの火山島で，島中央部には韓国の最高峰，漢拏山（ハンラサン）（標高1950m）がある．済州島には約300の玄武岩質の単成火山があり，火砕丘や小型盾状火山などの火山地形をつくる．それらに伴い，50以上もの溶岩洞窟があるのも済州島の特徴で，ここで紹介する万丈窟はその最大のものである．

万丈窟は島の北東部にある溶岩洞窟で，平均の幅と高さはそれぞれ15m・10mで，長さは約 8 kmであるが中央部の約 1 kmが一般公開されている．世界中で多くの溶岩洞窟が一般公開されているが，照明が不十分なために溶岩洞窟のようすがよく観察できなかったり，コンクリートで歩道が作られたためにかつて溶岩が流れた床面が失われていることが多い．万丈窟は，照明も十分で，床面には手が加えられておらず，往復で約 1 時間，ゆっくりと歩きがら溶岩洞窟のでき方に思いを巡らすことができる．

なお万丈窟は，漢拏山と西部にあるタフコーン，城山日出峰と合わせて2007年にユネスコの世界自然遺産に登録された．

日本地質学会第117年学術大会（富山大会）関連情報

－高度差4000mの地質学－
2010年 9 月18日（土）～20日（月・祝）
会場：富山大学五福キャンパス　ほか

＜事前参加登録締切＞
オンライン：9 月 3 日（金）18：00
FAX/郵送：8 月31日（火）必　着

●見学旅行もまだまだ申込可能です

「高低差4000mの地質学」にふさわしく，日本海から北アルプスまで，豊富な9コースが企画されています．いずれのコースもまだ十分申込可能です．たくさんのご参加をお待ちしています．

申込締切：9月3日（金）18:00（オンライン）

●富山大会に関連したプレス発表を希望される方へ

富山大会での講演や行事について，8 月下旬にプレス発表を行う予定です．富山大会で発表される予定の案件で，学会からのプレス発表をご希望の方は，8 月10日（火）までに学会事務局にご連絡願います．

登録締切：8 月10日（火）
プレス発表（投げ込み）：8 月下旬
現地説明会（解禁日）：8 月下旬
連絡先：日本地質学会事務局<journal@geosociety.jp>

●“緊急展示”の申し込みについて

学会活動の一端を広く社会に紹介するとともに，ホットなテーマについて議論する場を提供するために，災害報告や社会的に影響のある新技術紹介などの「緊急展示コーナー」を設けます．**ポスター展示を希望する方は，9 月 3 日（金）までに以下の内容で下記の実行委員会にご連絡ください．**

1）発表要旨PDF（ニュース誌4月号参照）　2）緊急展示の必要性　3）発表代表者と連絡先　4）希望枚数（1 枚：幅90×180cm）　5）展示に関わる要望（2 ～ 5 の様式は自由）

実行委員会は行事委員会と協議し，可否の判断を致します．希望にはできるだけ応えるようにしますが，展示方法等については実行委員会の指示に従ってください．

申込先　main@geosociety.jp
担当　大籐　茂（富山大会実行委員会）・上野将之（行事委員会）

（日本地質学会広報委員会）

富山大会の詳細情報は，大会HPをご参照下さい．
http://www.geosociety.jp/toyama/content0001.html

学　会　記　事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています．

（任）日本地質学会2009年度 第11回理事会 （一社）日本地質学会2009年度 第11回執行理事会 議事録

期　日：2010年４月３日（土）10：00～12：00
場　所：科学技術館　第一会議室
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　倉本　小嶋　齋藤　坂口　久田　向山　矢島各理事，保柳議長　小山内副議長，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，岩森　藤林

＊成立員数（９/17）に対し，出席者14名で，執行理事会は成立.
＊前回議事録の追承認

報告事項

１．会員委員会報告
・今月の入退会，逝去
・入会（４名）遠藤真哉，井島行夫〔院割１〕稲垣亜矢子〔学割１〕高木悠花
・退会10名（正９〔うち院１〕，準１←３月理事会後の届出）
正会員：大谷　充，干場真弓，鵜飼恵美，中島秀雄，堀本さとみ，和田温之，廣瀬祐市，村上道雄（院割）：吉崎もと子
準会員：井手直道
・逝去（正１）坂　幸恭（逝去日：2010/3/31）弔電・生花
・３月末退会者，除籍者
・2010年３月末会員数
賛29　名誉72　正会員3985（うち院206）　準31　合計4117（昨年比　-135）

２．藤原セミナーの募集，2011/1－2012/12までに開催されるもの，締め切り７月31日
→HP，News誌等に掲載
３．筑波大学学校教育局　朝永振一郎記念第５回「科学の芽」賞の後援依頼→例年通り承諾
４．学術振興会より日本学術振興会賞の募集
→HP，News誌等に掲載
５．第５回国際海底地すべりシンポジウム（ISSMMTC）2010/10/24－10/26の共催依頼
海外からの招請者に対する旅費支援のため資金援助要請あり．１口１万円で10口
国内委員会委員長　山田泰広（京大大学院工学研究科）事務局長　川村喜一郎（深田研）
→共催については承諾，ただし資金援助については全体収支予算案と本会への費用負担要請ついて，具体的な内容が示されてからのこととする．
６．関東天然瓦斯開発㈱役員選任ご挨拶状，社長　吉井正徳

審議事項

１．アイランドアーク編集委員会規則の変更について
２．法人化に伴う学会名称表記の修正を了承
地質学雑誌４月号より表紙等での学会名称表記を「一般社団法人　日本地質学会」に修正する．あわせて，編集規則（理事会承認事項）・保証書・著作権譲渡等同意書・転載申請書・著作物利用規定の文中の名称表記も同様に修正する．
３．評議員会・理事会審議内容の検討，確認
４．その他
１）規則類のうち，法人としての修正，整備等が必要なものについて確認をおこなう．

2010年5月19日

（任）日本地質学会2009年度 第12回理事会議事録

期　日：2010年５月８日（土）10：00～11：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　倉本　小嶋　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，石渡　岩森

＊成立員数（12/17）に対し，出席者14名，委任状　２名，欠席者　１名で，理事会は成立.
＊前回議事録の承認

報告事項

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長―上砂）
一般社団法人の議事録参照

会員関係（担当理事　向山）
１）入会者　９
正会員（１）　増田哲史
正〔院割〕会員（７）松田勇人，長沢知周，湯川弘一，佐藤亮介，宮田昌幸，阿部朋弥，木村光佑
正［学部割］会員（１）國井美幸
２）退会（賛助２，正５）
賛助：㈱ジオ・コンサルタント
正：石渡真己，都鳥康之，土屋章義，山本　威，前田光康
３）逝去者　１名（名）古川和代（逝去日：2010/3/4）
４）４月末日会員数
賛28　名誉72　正会員4025（うち院105）　学部割（旧：準）２　合計4127（昨年比　－139）

会計関係（担当理事　向山）
・4/23　会計委員会を開催
・2009年決算，2010年予算について検討
・男女共同参画委員会の年会の事業予算計画について，検討の結果了承することとした．
・城が島のリーフレットの編集費について申請（現時点で約５万円）あり，確認の上了承した．
・年会参加登録費用について，昨年同様とするが，学部学生，名誉会員，50年顕彰会員は無料とする．
・会員カードを作成に関し，その使途や会員サービス向上等について検討することとした．
・除籍会員（過去も含め）について，再度入会を奨励するキャンペーンとして，過去の未納会費について，何らかの免除を検討したい．

２．学術研究部会（部会長－石渡）
国際交流委員会（担当理事　石渡＝国際特任理事）
日蒙交流でジオパーク関係の講演会を検討中

３．編集出版部会（部会長－久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長　久田　副委員長－小嶋，岩森＝企画担当）
・編集状況
116-４月号：論説４　短報１　口絵１（4.27発送済み）
116－５月号：論説３　短報２　（約52ページ・校正中）
今月の編集状況は以下の通りです（５月６日現在）．
2010年度投稿論文　総数25編［総説８（和文８），論説11（和文９・英文２），報告３（和文３），短報２（和文２）ノート１（和文１）］口絵６（和文４英文２）
査読中　47編　受理済み　27編（うち通常号９　特集号18
・連合大会時に編集委員会開催予定（５月23日（日）12時30分～13時30分）
議案（１．新体制について　２．特集号の状況　３．企画部会の今後の活動についてほか）
・特集号の新規投稿：「構造地質学と応用地質学の接点」（世話人　竹下徹・松田達生・小林健太・丹羽正和）世話人の松田・小林・丹羽の３名をゲスト編集委員として迎え，査読作業を開始した．現在査読中の特集号は６件

Island arc編集委員会（担当理事　井龍，

事務局長　竹内圭史・角替敏昭）
　原稿の集まりは順調だが，編集作業に若干の遅れなどがみられる．

企画出版委員会（担当理事　藤林）
・リーフレット
　①「城ヶ島たんけんマップ―海から生まれた城ヶ島―」（蟹江ほか）
　現在再査読中
　②「超歴史年表」（編集代表　清川昌一）の企画申請並びに原稿の提出があった。
・監修図書「（仮）地球がつくったびっくり地形44」（A4；小５～中２対象）について
　造事務所（企画作成，PHP研究所出版）担当者（佃副会長，坂口理事）が２度打ち合わせを行った．

4. 各委員会等
支部長連絡会議（担当理事　高木）
　支部の功労賞などを制定したいとの関東支部からの申し入れがあり，支部活性化にとってプラスになるということで了承．支部の規則に明示して行うこととし，全支部に対しても案内する．

各賞選考委員会（委員長　中川光弘）
・評議員会報告でＩＡ賞の議論が抜けていたので，中川委員長名で評議員にメールで回覧し了解をえる．
・推薦者（母体）からの要請があれば，事務局を通じて審査過程を知らせる．

5. 地質の日委員会（藤林委員）
・本部企画
　日程　5月8日（土）13時半から15時半
　内容　講演会（講師　白尾元理さん，地球史46億年を撮る）
　写真展示，フォトコンテスト入賞者写真展示
　会場　東京大学　小柴ホール

6. 日本ジオパーク委員会（高木委員）
モンゴルジオパークの講演会開催
　2012年世界ジオパーク会議　島原ジオパークがホストとなって開催が決定

7. NPO地学オリンピック日本委員会（久田）

審議事項

１．総会（５月23日）議案・資料の確認について
　１号議案　2009年度事業経過報告
　２号議案　2009年度決算報告と資産の処分
　３号議案　任意団体日本地質学会の解散

（任）日本地質学会2009年度第3回定例評議員会議事録

2010年5月19日
日本地質学会評議員会
議長　保柳康一

日時：2010年４月３日（土）13：00－14：30
会場：科学技術館　第一会議室　（事務棟６階）（東京都千代田区北の丸公園2-1）
出席者：宮下純夫会長　高木秀雄・佃　栄吉副会長
（理事11名）渡部芳夫　石渡　明　井龍康文　上砂正一　倉本真一　小嶋　智　坂口有人　斎藤　眞　久田健一郎　向山　栄　藤本光一郎
（評議員16名）安藤寿男　磯﨑行雄　永広昌之　小山内康人　岡　孝雄　狩野謙一　北里　洋　佐々木和彦　滝田良基　中川光弘　新妻信明　保柳康一　松岡　篤　松原典孝　吉川敏之　脇田浩二
（事務局）　橋辺菊恵
欠席者：
（理事３名）岩森　光　藤林紀枝　矢島道子
（評議員20名）（委任あり）足立勝治　阿部国広　荒戸裕之　伊藤谷生　卜部厚志　大友幸子　川端清司　木村　学　公文富士夫　紺谷吉弘　沢田順弘　柴　正博　芝川明義　高橋正樹　堀利栄　松本俊幸　三宅康幸　村山雅史　山路　敦　山根　誠（委任なし）磯野　清　丸山茂徳　渡辺真人

＊出席者成立員数（20/39）に対し，出席17名，委任状19名で，評議員会は成立し，以下の報告事項が質疑・承認された．
＊書記の選出　岡孝雄・吉川敏之

報告事項

１．理事会報告
(1) 運営財政部会
　１）総務委員会（部会長　上砂）
　・１月～３月までの理事会議事録参照。事務局１月～３月，阿南氏雇用。
　２）会員委員会（担当理事　向山）
　・12月以降の入会者数　3名
　正会員２名（うち院割２），準会員１名
　・12月以降の退会者　116件
　賛助会員　１団体　正会員 113名（うち院割 13），準会員２名
　・12月以降の逝去者６名（名誉会員　１名，正会員 ５名）→１分間黙祷．
　名誉会員　古川和代（2010/3/4）
　正会員　鈴木康司（2009/11/8），植田和男（2009/11/9），根本　守（2009/12/2），本庄　充（正月北アルプス遭難2010/1/4逝去日とする），坂　幸恭（2010/03/31）
　・2010年３月末除籍者　125名（前年度244名）
　・会員数

	賛助	名誉	正会員(内院生割引)	準会員	合計
2010年3月31日	29	72	3,985 (206)	31	4,117
2009年11月30日	30	73	4,226 (217)	32	4,361
前回比	－1	－1	－241 (－11)	－1	－244

　・会員数の減少傾向は従来の予測の通り．
　３）会計委員会（佐々木和彦委員長・担当理事　向山）
　・2009年度の決算案
　・各支部に事業計画並びに予算案の提出求め，６支部から提出を受け，内容検討の結果来年度の予算案に反映させることとした．
　４）その他
　・JABEE委員会・技術者継続教育委員会・地質科学関連学会連合・自然史連合・地理関連学会連合・地球惑星科学連合からは特に報告なし．
　５）広報委員会（情報特任担当理事　倉本，委員長　坂口理事）
　・第１回惑星地球フォトコンテスト2009（IYPE日本委員会との共催）を実施．
　・14作品が入賞（会員2名，非会員12名）．
　・受賞作品は連合大会，地質の日，秋の大会等で展示予定．
　・今後も継続して実施予定．
　【ニュース誌編集委員会】
　・2009年掲載実績（2009年１～12月号：Vol.12,No.1-12）
　総ページ：356ページ（カラー綴込：ジオパークパンフレット，No.3掲載）
　外部広告掲載：４社７件（ジーエスアイ株式会社/応用地質株式会社/Stallard Scientific Editing/TERRAPUB）
　【インターネット運営委員会】
　・特になし

(2) 学術研究部会
　１）行事委員会（委員長　斎藤理事）
　・年会参加登録システムをHP上に構築し，現在試験調整中．参加費等の支払いにはクレジット決済システムを導入する方向で準備している．
　・年会業務は昨年に引き続きアカデミックブレインズに委託することとした．
　・富山大会のセッションおよびシンポジウムについて，現在整理調整中．学会誌4月号に掲載予定．
　・2011年度の水戸大会は，鉱物科学会が共同開催の意思を表明したので，その方向で準備．日程は再検討した結果，会場の事情を考慮して9月最初の土日になる見込み．
　・科研費B（研究成果公開促進費）に申請した「地質情報展とやま―北陸の大地をゆるがす地震と恐竜」（補助金額140万円）は内定段階で採択の方向へ前進．
　２）国際交流委員会（特任担当理事　石渡）

＊日韓交流について（行事とも関連　高木）
・８月23日～25日に韓国地質学会・日本地質学会のJoint Meeting を室戸ジオパーク（国立室戸青少年の家）で開催する．この会議は，構造地質学会としての10年ほど前の３回の交流を踏まえ構造地質部会が企画・運営し，富山大会のプレシンポ・プレ巡検として位置づけ，特に若手の参加に努力したい．運営費については，構造地質部会特別引当金と参加費から賄う．現在セッションの招待講演者を決定しつつあり，1st Circular作成に向けて準備中．ポスターはすでに韓国地質学会でも公開済み：下記HP参照
http://struct.geosociety.jp/koreajapangs2010/
・昨年の済州島大会における宮下会長招待を受け，富山大会に韓国地質学会の会長Lee Yong Il教授を招待する予定．
・2009年の国際交流
３）専門部会連絡委員会（担当理事　藤本）
・特になし
４）研究委員会
・南極地質研究委員会（委員長　廣井美邦）
・特になし
・地質環境長期安定性研究委員会（委員長　吉田英一）
・特になし

(3) 編集出版部会
１）地質学雑誌編集委員会（委員長　久田理事　副委員長－小嶋，岩森＝企画担当）
・３月末現在の編集状況
116-3月号：論説４　短報１　口絵１１（53ページ・3/29発送済み）
116－4月号：論説３　短報３（約60ページ・校正中）
現在査読中論文　41編　受理済み　21編（うち通常号７　特集号14）
・投稿実績
2009年1～12月：昨年比　―48
総数：73編［論説40（和文39　英文１），総説11（和文11）短報18（和文17英文１），ノート３（和文３）報告１（和文１）］，口絵８（英文４・和文４）
特集号投稿２件：高分解能火山地質学（1）：/高分解能火山地質学（2）
2010年１～３月（３/29現在）：昨年比+1
総数13編［総説１（和文１），論説９（和文８・英文１），報告１（和文１），短報２（和文２）］，口絵６（和文３英文３）
・掲載実績
115-1～12月号（2009年１～12月）：
総ページ：689ページ（うち種別　総説７・論説35・短報９・ノート３・報告３・口絵10）
特集号掲載３件：「最終間氷期の環境変動」（115－7月号）/「プレート沈み込み帯と地震」（115－9月号）/「陥没カルデラ（1）」（115－12月号）
・法人化に伴う学会名称表記の修正
地質学雑誌４月号より表紙等での学会名称表記を「日本地質学会」から「一般社団法人　日本地質学会」に変更する．
あわせて，編集規則（理事会承認事項）・保証書・著作権譲渡等同意書・転載申請書・著作物利用規定の文中の名称表記も同様に変更する．
・第三紀の扱いの国際的変更に関連して，「第三紀」を使用しない編集を行う．
２）アイランドアーク編集委員会（編集長　井龍理事，編集事務局長　竹内圭史）
・３月31日現在のIsland Arcの編集状況は，19巻１号まで発行済み．受理・印刷掲載12ヶ月待ちを６ヶ月待ちに改善できる見込み．
・IAR編集事務局が産総研つくば内から学会事務局に移転完了．
・４月１日から編集事務局長（竹内圭史・角替敏昭）が原　英俊（産総研）に交代し，同事務局長は副編集委員長を兼ねる．
・Island Arc編集規則の変更を（一社）理事会で審議．
３）企画出版委員会（担当理事　藤林）
・城ケ島たんけんマップ-海から生まれた城ケ島-（蟹江康光ほか）の企画提案が提出され，現在査読中．

(4) 普及教育事業部会
１）地学教育委員会（委員長　中井均，担当理事　矢島）
・日本地震学会・日本火山学会共催の地震火山こどもサマースクールについて，今年は地質学会も後援，来年度からは共催として進める予定．今年の第11回サマースクールは８月７日・８日に室戸ジオパーク（青少年自然の家）で開催．窓口は高木．
【連合地学教育検討委員会】（渡辺）
・特になし
２）生涯教育委員会（委員長　柴）
・特になし
３）地質基準委員会（委員長　新妻）
・特になし
４）地層名委員会（委員長　天野，担当理事　井龍）
・第四紀，第三紀問題等に関する報告を，３月号News誌ならびにHP等に掲載した．ただし，掲載文「第四紀と更新世の新しい定義と関連する地質時代・年代層序の用語について」中の記５の「鮮新世の区分は上・下鮮新世，後・前期鮮新統の二区分とし…」は誤記のため，「鮮新世は前・後期鮮新世，上・下部鮮新統の二区分とし･･･」に訂正する．

(5) その他理事会関係委員会等報告
１）法務委員会（委員長　上砂理事）
・利益相反規則が決定し，これに基づき各賞選考が進められた．
２）支部長連絡会議（担当理事　高木副会長）
・2010年度からは支部選出の理事には，本部と支部が学会としての統一ある運営活動になるためのつなぎの役割を担っていただく．具体的には，理事会で審議される支部に関する検討事項等においては，支部選出の理事を通じて支部意見を理事会に反映するようにしていただきたく，支部および支部選出理事の各位にはご理解の上でご協力をいただきたい．なお，今後の支部長連絡会議では，各支部相互の意見交流ならびに　調整を行うこととし，事務的連絡網としても整備させたい．
・以下の支部で支部長の交代があった．
北海道支部　竹下　徹（旧：宮坂省吾），東北支部　竹谷陽二郎（旧：大槻憲四郎），四国支部　臼井　朗（旧　高橋治郎），西日本支部　宮本隆実（旧　大木公彦）
・支部代表理事および支部長
北海道　理事　田近　淳　支部長　竹下　徹
東　北　理事　永広昌之　支部長　竹谷陽二郎
関　東　理事　伊藤谷生　支部長　伊藤谷生
中　部　理事　竹内　誠　支部長　原山　智
近　畿　理事　奥平敬元　支部長　宮田隆夫
四　国　理事　村田明広　支部長　臼井　朗
西日本　理事　太田泰弘　支部長　宮本隆実
３）地質災害委員会（担当理事・委員長藤本）→法人審議事項へ
４）ジオパーク支援委員会（委員長　天野，担当理事　高木）
・５月23日の連合大会のパブリックセッションにおいて第四紀学会，地理学会と共催でジオパークのシンポジウムを開催する．また，富山大会の地質情報展の会場で，ジオパークのシンポジウムを開催する予定．ウェブページも充実させる．
【日本ジオパーク委員会（委員　高木副会長）】
・上記の連合大会初日のパブリックセッションにおいて，今年申請する地域（世界は室戸・阿蘇の２件，日本３件の予定）は日本ジオパーク委員会のプレゼン審査を兼ね，終了後委員会が開催される．
５）法人化作業委員会（担当理事・委員長渡部常務理事）
・特になし

２．評議員会関係委員会等報告
１）各賞選考委員会（委員長　中川）
・法人理事会で報告審議
２）名誉会員推薦委員会（担当理事　佃副会長）
・法人理事会で報告審議
３）男女共同参画委員会（委員長　堀）
・地質学学会HPに男女共同参画委員会の紹介ページを作成．
・来年度の委員会関係事業として，1）学会保育室利用促進のための利用者補助，2）Geo-Kids応援プログラムの企画および予算を提出．ただし，2）については

企画内容の再検討中.

3．その他
1）IYPE日本委員会（佃副会長）
・ファイナルイベントを開催（3月27日－28日，富士ソフトアキバプラザ）
「惑星地球フォルム2010 in アキバ —君たちと考える環境・防災・資源」記念式典 28日 第1部 セレモニー，第2部 記念講演およびパネル討論，アキバ宣言
テーマ展示 3月27日－28日 青少年対象
・日本地質学会特別協賛企画
3月27日（土）15：00－16：00
①早稲田大学高等学院 地学クラブ 研究紹介
②四川大地震 記録映画 『風を感じて』ダイジェスト版上映
③早稲田大学高等学院の高校生，四川大地震の記録映画製作者と一緒に語る「大地の変動」
・日本地質学会にたいし感謝状が授与された.
2）国際地学オリンピック日本委員会（委員長 久田）
・国内選抜一次予選（2009年12月20日各地で筆記試験実施；682名応募）を受け，3月24日～26日に，つくばで一次選抜24名の参加で国内二次選抜大会が行われ，インドネシア大会に参加する4名の高校生（大西泰地・川島崇志・武内健大・野田和弘）が選抜され，その他4名に大会優秀賞が授与された.
3）地質の日委員会（委員 藤林理事）
・ニュートンに記事掲載決定：掲載月号は，2010年6月号（4月26日発売）
・IYPE「大矢記念特別賞」受賞
「IYPE推進に力を注いだ方々，あるいはそのポリシーを引き継ぐ団体等」として.
4）学術会議関連（北里学術会議会員）
・「日本の展望」がまとめられ，学術会議のウェブページからダウンロードできる.
・大規模科学研究計画をまとめた.これも，ウェブページからダウンロードできる。コミュニティーとやり取りしながら改訂するので，地質学会も発言してもらいたい.
・青少年の理科離れを抑止するため，とくに，地球科学は総合的な分野であるので，全教科に亘る万遍ない知識の修得が求められる。「地球に生きる素養を身につけよう：地球と自然を好きになる教育の勧め」を提言予定.時期は夏前となる見込み.

4．理事会審議事項報告（おもなもの，その他，詳細は（任）理事会議事録参照）
1）第四紀・第三紀問題について
1月22日公表の文書の内容を本学会の指針とし，今後雑誌やHPなど学会の公式文書は，それに従うこととする.学術大会の講演や講演要旨などについては第三紀の使用を妨げない.
地層名委員会と理事会の連名で，指針と推奨する年代表をHPやNews誌などに速やかに掲載.
2）法人への移行について
3）地質災害について

評議事項
1．任意団体の解散と財産の移譲について
・一般社団法人への移譲財産の確認（資金・備品・図書など）がなされた. 5月23日開催予定の総会で，これらすべてを一般社団法人に委譲し，任意団体は解散する方針であることが説明され，承認された.

2．2009年度事業報告・決算案
・3月31日現在の決算が報告され，承認された.

3．総会議案について
・5月23日開催予定の総会の議案が下記のように提案され，承認された.
1号議案 2009年度事業経過報告
2号議案 2009年度決算報告
3号議案 任意団体の解散と法人への移行 —解散宣言—
4．その他
・評議員会は今回が最終回となるため，宮下会長から挨拶があった.

学会オリジナルフィールドノート 好評発売中です！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました.
表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました.野外調査に最適です.本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています.ぜひご活用ください.

サイズ：12×19cm（従来と同じです）. カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し.
色：ラセットブラウン（小豆色） 会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

（一社）日本地質学会2009年度 第12回執行理事会議事録

期　日：2010年５月８日(土)11：00～12：15
場　所：東京大学小柴ホール　第４会議室(213号室)
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　倉本　小嶋　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長　石渡　岩森

＊成立員数（９/17）に対し，出席者14名で，執行理事会は成立.
＊前回議事録の承認

報告事項

１．理事会推薦候補者の外部監事について，選挙管理委員会への届け出を行い，選挙管理委員会から受理通知を受けた.なお，手続き上のミスについては，厳重注意を受けた.
選挙管理委員会として，代議員，会員への選挙の追加報告を行った.
２．アイランドアークのオンライン購読についての現状
2009年度よりInstitutional Subscriptionのアクセス権２口，2882ドル
３．第26回ゼオライト研究会発表会（12月２日～３日）の協賛依頼→例年通り承諾
４．環境省から，環境の日（６/５）および環境月間（６/１－30）に対する協力依頼
５．連合大会におけるジオパークセッション（代表渡辺真人）からの後援依頼→承諾
６．第四紀学会シンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか？学会と教育現場との連携に向けて」の後援依頼→承諾
７．環境省近畿地方環境事務所主催，地質の日フィールドワーク「太古の自然を感じよう，御浜小石の秘密をさぐれ！」（５/８，講師　後誠介会員，吉野熊野国立公園七里御浜）の後援依頼→承諾
８．日本科学技術振興財団の「青少年のための科学の祭典2010」の後援依頼→例年通り承諾
９．地理学連携機構（代表岡部篤行）として，地歴科教育の教育課程に関する中間見直し実施に関する要望書提出に際し（以下の２件），連名団体となることについての依頼があり，検討の結果，連名団体となることを承諾した.
文部科学大臣あて要請書「高等学校地理歴史科の履修形態の改善に関する要請」
東京都教育委員会教育長あて要請書「東京都立校等学校における地理歴史科の履修形態に関する要望書」
10．広島大学教員公募，三重県学芸員の公募案内があり，メルマガ，News誌で広報した.
11．賛助会員㈱ダイヤコンサルタント役員変更挨拶状，応用地質㈱東北支社長新任挨拶状，千葉大学リモートセンシング研究センターセンター長交代の挨拶状.
12．地球惑星科学連合から連絡委員推薦の要請があり→総務部会から向山理事を指名
13．古生物学会創立75周年記念式典への招待と祝辞の要請，６月10日（木）３時半から，つくば国際会議場→会長出席

審議事項

１．総会（５月23日）議案資料，議事進行およびだ１回理事会の確認について
＊5月23日のスケジュール
会場　幕張メッセ国際会議場304室　開場17時15分
①17時30分～50分
新理事による事前打ち合わせ
②18時～18時40分
任意団体　総会
第１号議案　2009年度事業報告
第２号議案　2009年度決算報告
第３号議案　任意団体日本地質学会の解散と一般社団法人への移行
③18時45分～19時10分
2009年度第２回一般社団法人総会（20分程度）
第１号議案　理事会報告
第２号議案　2009年度事業・決算報告
第３号議案　代議員および理事・監事選挙報告
④19時10分～19時15分
2010年度第一回理事会　パート１　５分程度
代表理事(会長)・副会長・執行理事の選任
⑤19時15分～19時45分
2010年度第１回一般社団法人総会　30分程度
第１号議案　代表理事(会長)・副会長・監事および執行理事の選出
第２号議案　2010年度事業計画
第３号議案　2010年度予算案
第４号議案　名誉会員の選出
⑥19時45分～20時15分
2010年度第一回理事会　パート２
各賞選考委員会の発足
執行理事・理事の役割分担

２．その他
１）2010年度の予算案について
・財産移譲に関して任意団体と法人の間で契約書を交わすこととする.

２）男女共同参画委員会の来年度事業について下記の堀委員長の再提案を了承.
・保育室への補助：保育室は会場内に設けず外部業者への委託保育を行う。小学校６年まで可能．保育料の補助800-900円/1時間に対し親負担は1/3，300円とする.
・学童ルームの設置：会場内休憩室に併設，大人の目が届くよう.
・富山市内巡りの１日フリー券の補助：大人600円，子供300円，年会，情報展，私立科学博物館等を回る．予算約12000円程度
・ファミリープラン：個別の行事ではなく地学教育の見学旅行に親子で参加する.
３）地質学会友の会についての提案（坂口）
坂口理事をヘッドにしてワーキンググループを設置して検討を行う.
４）高校の理科において，平成12年度からの３科目必修化にあたり，すべての高校で希望者が地学を履修できるように，文科省ならびに都道府県教育委員会あてに要望書を提出する．地学教育委員会に原案作成を依頼
５）会費滞納で除名となった者について，未納分会費の減免を行い復帰させ会員増を図る．総会以降12月までのキャンペーンとして期間を区切って実施する.

2010年５月19日

（一社）日本地質学会2009年度 第3回理事会議事録

日　時：2010年４月３日(土)14：45－16：45
会　場：科学技術館　第一会議室（事務棟６階）(東京都千代田区北の丸公園2-1)
出席者：宮下純夫会長　高木秀雄・佃　栄吉副会長
（執行理事11名）渡部芳夫　石渡　明　井龍康文　上砂正一　倉本真一　小嶋　智　坂口有人　斎藤　眞　久田健一郎　向山　栄　藤本光一郎
（理事16名）安藤寿男　磯﨑行雄　永広昌之　小山内康人　岡　孝雄　狩野謙一　北里　洋　佐々木和彦　滝田良基　中川光弘　新妻信明　保柳康一　松岡　篤　松原　典孝　吉川敏之　脇田浩二
（事務局）橋辺菊恵
欠席者：（執行理事３名）岩森　光　藤林紀枝　矢島道子
（理事19名）足立勝治　阿部国広　荒戸裕之　伊藤谷生　磯野　清　卜部厚志　大友幸子　川端清司　木村　学　公文富士夫　紺谷吉弘　沢田順弘　柴　正博　芝川明義　高橋正樹　堀　利栄　松本俊幸　丸山茂徳　三宅康幸　村山雅史　山路　敦　山根　誠

渡辺真人
（監事　2名）青野道夫　山本正司
＊定足数　29/56　出席者30名（ただし委任状は認められない）で成立している．
＊書記の選出　岡孝雄・吉川敏之

報告事項

1．執行理事会報告
・1月～3月までの執行理事会議事録参照
2．選挙結果報告
・2010年度（一般社団法人日本地質学会）の選挙結果が報告された．
3．各賞選考結果報告→審議事項
4．名誉会員候補者選出結果報告→審議事項
5．2010年度 50年顕彰会員（12名）：1960年1月～12月に入会された方々
磯部重光・遠藤淳二・大原　隆・加藤祐三・蟹江康光・蟹沢聡史・柴山弘之・富沢昭文・降旗和夫・満岡　孝・宮崎浩・吉田　尚*（在会52年，名誉会員のため検索漏れ）
6．「地質の日」本部イベント企画
5／8（土）13:30～15:30（東京大学小柴ホール）
・白尾元理さん講演会「地球史46億年を撮る」（1時間+質問15分）
・ジオ写真展（白尾さんの写真と惑星地球フォトコンテスト入賞作品の展示）
7．その他
・4月1日付で事務局員に阿南晶子さんを採用，アイランドアーク編集事務，一般庶務等を担当

会長(左)から辞令書を受け取る阿南さん(右)

審議事項

1．2009年度事業報告
・特に意見なく，承認された．

2．2010年度事業計画および2010年度予算案
・事業計画について，「学会の強化」とはどういう意味かという質問があり，組織の強化であると説明された．IUGSとの連携では，学会との関係が希薄になっている現状の問題点が指摘された．専門部会・支部との連携も強化すべきとの意見も出され．法人としての地質学会はこれら2つの体制が活動の基本との説明がなされた．多方面に打って出る積極的な事業計画に対し，支持する意見と共に財政面での不安も指摘があった．執行理事にとどまらず，理事会全体で中～長期的な経営計画を立案・検討して欲しいとの要望も出された．文言については総会までに小修正することとし，承認された．
・予算については，昨年5月の任意団体日本地質学会の総会決議にしたがって，会員と事業のすべてが法人に移行されるものとし，任意団体日本地質学会からの譲渡および一般社団法人日本地質学会の財産に基づく予算案（暫定）について審議し，承認された。

3．各賞の決定および選考における検討事項について
1）選考結果は異論なく，承認された．各賞の受賞者は以下のとおり．
1．学会賞：該当者なし
2．国際賞：1件
○J. G. Liou
「低温高圧・超高圧変成作用の研究と日本の地質学界への貢献」
3．小澤賞：1件
○後藤和久
「地質学的手法による津波・高波災害履歴と規模の推定に関する研究」
4．柵山賞：推薦なし
5．論文賞：2件
○Sugawara et al.
「Foraminiferal evidence of submarine sediment transport and deposition by backwash during the 2004 Indian Ocean tsunami」, Island Arc, 18, 513-525.
○宮田雄一郎・ほか
「中新統田辺層群にみられる泥ダイアピル類の貫入構造」，地質学雑誌，115，470-482.
6．Island Arc賞：1件
○Fu-Yuan Wu et.al, 2007, The Heilongjiang Group: A Jurassic accretionary complex in the Jiamusi Massif at the western Pacific margin of northeastern China. Island Arc, 16, 156-172.
7．奨励賞：3件
○佐藤雄大：
「東北日本男鹿半島，台島層の層序」地質学雑誌，115，31-46.
○大橋聖和：
「中部地方北部，牛首断層中央部における断層幾何学と過去の運動象」地質学雑誌，114，16-30.
○川上　裕：
「火山－深成複合岩体に見られる環状岩脈とシート状岩脈群：(以下,略)」地質学雑誌，113，296-309.
8．小藤賞：該当なし
9．学会表彰：2件
○山口県：業績タイトル「阿武火山群の火山灰層の保存と観察施設建設」
○地球システム・地球進化ニューイヤースクール（NYS）事務局（大坪誠・坂本竜彦・岡崎裕典・ほか）
「地球科学系の若手研究者の継続的育成活動」
10．学会功労賞:1件
○杉山了三：
「地域を生かし，生徒とともに創造する地学学習」
2）各賞選考の過程で顕在化した問題点（選考基準・推薦数不足・年齢制限など）が各賞選考委員長から報告された．これに対し，推薦を増やす方法の案や，賞の見直しなどの意見が出された．今後，5月総会（第117年）後に発足する新理事会で議論する方針が示され，承認された．

4．名誉会員候補者の決定
・3名の方（町田洋・石原舜三・藤田崇会員）を名誉会員候補者として推薦することが報告され，承認された．

5．地質災害
・地質災害委員会で審議すべき内容が提案され，承認された．

6．総会議案について
・5月23日開催予定の総会は一般社団法人日本地質学会への完全移行のために2部構成となっているが，議案が下記のように提案され，承認された．
＜2009年度代議員による審議＞
第1号議案　理事会報告
第2号議案　2009年度事業・決算報告
第3号議案　代議員および理事・監事選挙報告
＊＊　休憩10分～15分　＊＊
＜2010年度代議員による審議＞
第4号議案　代表理事（会長）・副会長・監事および執行理事の選出
第5号議案　2010年度事業計画
第6号議案　2010年度予算案
第7号議案　名誉会員の選出

7．その他
1）理事会推薦の監事について
・理事会推薦の監事候補者が提案され，承認された．本来は，選挙管理委員会への事前の届けが必要であったが，その手続きが未了であったため，今回に限り事後に行う．
2）Island Arc編集委員会規則の変更について
・Island Arc編集事務局の学会事務局への統合に伴い，Island Arc編集委員会規則を改正することが提案され，承認された．これにより，従来の編集事務局長（2名）が副編集長（1名）へと変更になる．
3）2010年度第1回理事会の開催について
・2010年度第1回理事会は，5月23日の総会終了後に開催するとの提案が示され，

了承された．

2010年５月19日

一般社団法人日本地質学会
2010年度第1回理事会議事録

日時：2010年５月23日（日）
第一部　19：00－19：15（審議事項１～４）
第二部　19：50－20：10（審議事項５～７）
会場：幕張メッセ　国際会議場　304会議室

出席役員（一部・二部）　理事：天野一男，安藤寿男，石渡　明，伊藤谷生，井龍康文，上砂正一，永広昌之，太田泰弘，小山内康人，狩野彰宏，北原哲郎，小嶋　智，紺谷吉弘，斎藤　眞，坂口有人，佐々木和彦，柴　正博，高木秀雄，高橋正樹，竹内　誠，竹下　徹，田近　淳，田村嘉之，内藤一樹，中井　均，西　弘嗣，楡井　久，久田健一郎，平田大二，藤本光一郎，星　博幸，保柳康一，松原典孝，宮下純夫，向山　栄，山口耕生，山田泰広，脇田浩二，渡部芳夫，監事：青野道夫　以上理事39名，監事１名．
欠席役員　理事：奥平敬元，榊原正幸，芝川明義，福富幹男，藤林紀枝，松岡　篤，松田博貴，村田明広，矢島道子，林　愛明，監事：山本正司　以上理事10名，監事１名

＊定足数：理事総数49名の過半数25名，本日の出席理事39名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数20名
＊前会長の宮下理事を議長に，第１回の理事会を以下のとおり開催した．

審議事項

１．会長＝代表理事の選出（１名）
　宮下純夫理事を賛成多数にて代表理事に選出した．

２．副会長の選出（２名）
　久田健一郎理事ならびに渡部芳夫理事を賛成多数にて副会長に選出した．

３．執行理事の選出（定数15名以内）
　執行理事予定者の竹下理事の辞退により，山口耕生理事の立候補を承認し，賛成多数で以下の執行理事を選出した．
　石渡　明，井龍康文，小嶋　智，斎藤　眞，坂口有人，高木秀雄，内藤一樹，中井　均，西　弘嗣，平田大二，藤林紀枝，藤本光一郎，星　博幸，向山　栄，山口耕生

４．監事の選出
　青野道夫（会員），山本正司（非会員）の２名を賛成多数で監事に選出した．

５．理事会議長・副議長の選出
　議長として小山内康人理事，副議長として竹内　誠理事を賛成多数で選出した．

＊以後の議事進行は，選出された議長・副議長によって行われた．

６．各賞選考委員会委員の選出
　理事の互選により専門分野が偏らないよう考慮して，以下の10名の理事を選出した．
　天野一男，安藤寿男，上砂正一，永広昌之，狩野彰宏，榊原正幸，竹下　徹，松田博貴，村田明広，山田泰広
１）役職指定委員は以下の通り
前・現地質学雑誌編集長：久田健一郎，岩森　光，小嶋　智，
前・現アイランドアーク編集長：石渡　明，Wallis Simon，井龍康文，前川寛和
２）上記17名の委員の互選による，各賞選考委員会委員長の選出を依頼した．

７．その他
１）宮下会長・久田・渡部両副会長の就任挨拶と新執行理事全員の紹介があった．
２）次回，次々回の理事会日程を決めた．
2010年９月17日（金）富山にて開催
2010年12月４日（土）東京にて開催

2010年５月23日

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

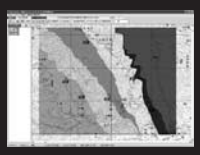
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

・**GeoClino-G**（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

GSI **ジーエスアイ株式会社**
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格(白黒)	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

(単位：円)

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず,
4回掲載一括注文：10%割引
6回掲載一括注文：15%割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります.

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

海・山ありて富める大地

地質情報展2010とやま

入場無料

2010年 9月18日(土)19日(日)

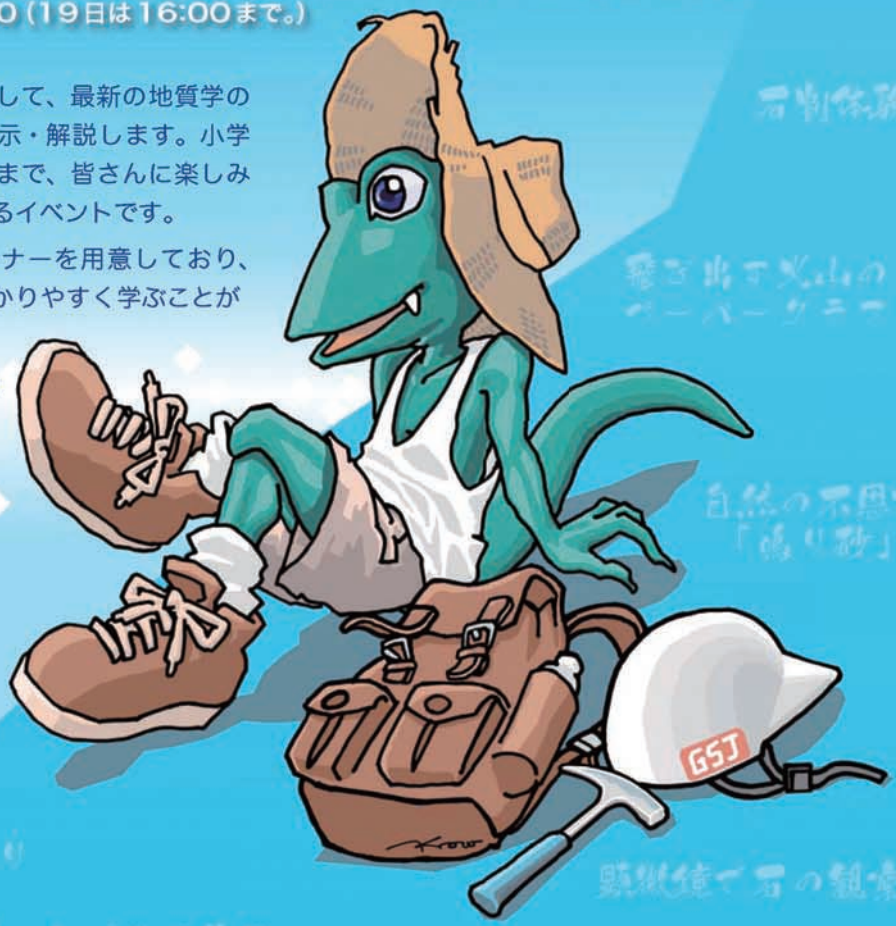
富山市民プラザ 2Fアートギャラリー・アトリウム

9:30～16:30（19日は16:00まで。）

富山及び周辺の地質をはじめとして、最新の地質学の成果を分かりやすく体験的に展示・解説します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな体験学習コーナーを用意しており、実験や実演を通して地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展2010とやま」にご来場ください。



主催：一般社団法人日本地質学会・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

後援：富山市・富山県教育委員会・富山市教育委員会・NHK富山放送局・北日本新聞社・財団法人立山カルデラ砂防博物館・国立大学法人富山大学・日本ジオパークネットワーク・富山県地質調査業協会・社団法人斜面防災対策技術協会富山県支部

■■■ お問い合わせ先 ■■■

独立行政法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター地質情報展開催事務局
E-mail: johoten2010.jimu@m.aist.go.jp
TEL: 029-861-3549
URL: http://www.gsj.jp/Info/event/2010/johoten_2010/

「地質情報展2010とやま－海・山ありて富める大地－」は、平成22年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp